

# 上中居宇名室遺跡 2

—集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2016

株式会社シン技術コンサル  
高崎市教育委員会



## 例　　言

1. 本書は集合住宅建築工事に伴い実施された、「上中居字名室遺跡 2」(高崎市遺跡番号 665) の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の所在は、群馬県高崎市上中居町 1167 番地 1、1168 番地 1 である。
3. 発掘調査は、平成 28 年 2 月 1 日から平成 28 年 3 月 10 日まで実施した。
4. 発掘調査および整理作業は高崎市教育委員会の指導・助言及び監督のもと、島田保良から委託を受けた株式会社シン技術コンサルが実施した。
5. 調査体制は以下の通りである。

高崎市教育委員会 矢島 浩

株式会社シン技術コンサル 安生素明（調査担当）、小林正輝、成田巖人（測量担当）

6. 本書の編集は、安生・大和律子（シン技術コンサル）・小林が行った。執筆は、第Ⅰ章を矢島、それ以外を安生が行った。

7. 本調査における図面・写真・遺物は、高崎市教育委員会で保管している。

8. 発掘調査参加者・整理作業参加者については、以下の通りである。（敬称略・五十音順）

<発掘作業参加者>

青山真佐子 片原正美 金屋義武 飼持千一 小林 博 烏田敏子 須藤壯太 関口 正 高橋民雄  
高橋人夢 中山孝義 堀井エミ子 茂木昭弘 六反田達子

<整理作業参加者>

新井かおり 荒井 洋 河手美綾子 北村和穂 木村真弓 倉石広太 坂口 一 佐藤久美子  
鈴木幸見 鈴木澄江 田島直美 昌中 朋 福嶋正史 藤田 純 松本悦子 山田千鶴子 大和律子  
吉澤 學

9. 発掘調査の実施および報告書刊行に至るまで、下記の機関・諸氏の御指導・御協力を賜りました。記して感謝の意を表します。（敬称略）

加藤空撮 繙谷印刷有限会社 山下工業株式会社 studio foglia

## 凡　例

1. 本書掲載の第1図は、高崎市地図情報サービス（<http://www.sonicweb-asp.jp/takasaki/map>）掲載地形図を取得し加工、第3図は『新編高崎市史』通史編1の中村正芳 2003「高崎市域とその周辺地域の地形区分』を加工、第4図は国土地理院発行 1/25,000 の地形図『高崎』をそれぞれ使用した。
2. 遺構平面図に示した方位は座標北であり、水準線は標高を示す。座標については世界測地系に基づく平面直角座標第IV系を使用した。
3. 土層および遺物の色調は『標準土色帖』（農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所 36版）による。
4. 本書における遺構種類の略号を以下に記す。  
SI = 窃穴住居跡 SK = 土坑 SE = 井戸 SD = 溝 SX = 性格不明遺構 SP = ピット
5. 本文・図面に示すテララ名を以下に記す。  
As-A = 浅間 A 軽石 1783（天明三）年降下 As-B = 浅間 B 軽石 1108（天仁元）年降下
6. 遺構図において使用しているトーンの凡例は、以下の通りである。  
 灰範囲  焼土範囲
7. 遺物番号は、遺構図・遺物実測図・観察表・写真図版とともに統一してある。
8. 遺物実測図・写真の縮尺は 1/3 を基本とし、例外の場合は実測図中に縮尺を記載した。
9. 土器実測図において、土器口縁部の残存が 1/2 未満の場合は断面図側の口縁部線を中心線から離した。

## 目 次

### 例 言

### 凡 例

第Ⅰ章	調査に至る経緯	1
第Ⅱ章	調査の方法と経過	2
第Ⅲ章	遺跡の立地と環境	3
	第1節 地理的環境	3
	第2節 歴史的環境	3
第Ⅳ章	基本層序	8
第Ⅴ章	検出された遺構と遺物	11
	第1節 積穴住居跡	11
	第2節 土坑	15
	第3節 井戸	27
	第4節 溝	30
	第5節 性格不明遺構	38
	第6節 ピット	40
	第7節 遺構外出土遺物	40
第Ⅵ章	まとめ	49

### 写 真 図 版

### 報告書抄録

## 挿図目次

第1図	調査区位置図	1	第18図	SE002	28
第2図	グリッド設定図	2	第19図	SE003	29
第3図	周辺の地形	3	第20図	SE004	29
第4図	周辺の遺跡	5	第21図	SE005	30
第5図	基本土層柱状図	8	第22図	SD001	30
第6図	遺構全体図	9	第23図	SD002	32
第7図	SI001 (1)	12	第24図	SD003	33
第8図	SI001 (2)	13	第25図	SD002～004	34
第9図	SI002 (1)	14	第26図	SD002出土遺物 (1)	35
第10図	SI002 (2)	15	第27図	SD002出土遺物 (2)	36
第11図	SK001～009・SP014	17	第28図	SD002・003出土遺物	37
第12図	SK010～015	20	第29図	SD005	38
第13図	SK016～018・SK017出土遺物	21	第30図	SX001・002	39
第14図	SK018出土遺物・SK019～022	23	第31図	SX003	40
第15図	SK023～028	25	第32図	遺構外出土遺物	40
第16図	SK029～031	26	第33図	ピット全体図	41
第17図	SE001	27			

## 表目次

第 1 表	周辺遺跡一覧表（1）	5	第 8 表	性格不明遺構観察表	44
第 2 表	周辺遺跡一覧表（2）	6	第 9 表	ピット観察表（1）	44
第 3 表	周辺遺跡一覧表（3）	7	第10表	ピット観察表（2）	45
第 4 表	整穴住居跡観察表	43	第11表	出土遺物観察表（1）	45
第 5 表	土坑観察表	43	第12表	出土遺物観察表（2）	46
第 6 表	井戸観察表	43	第13表	出土遺物観察表（3）	47
第 7 表	溝観察表	43	第14表	出土遺物観察表（4）	48

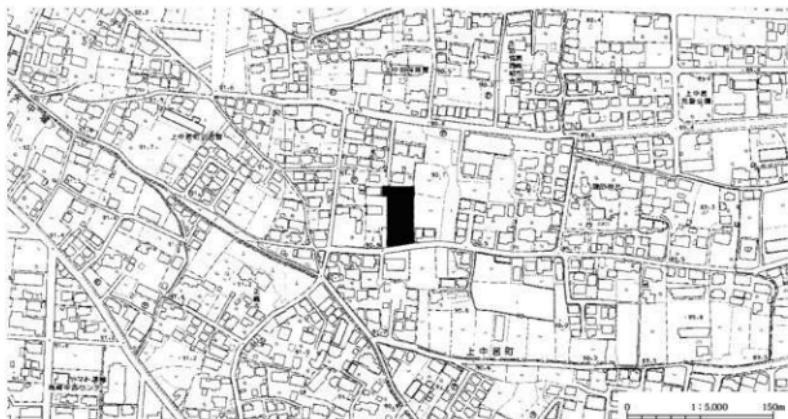
## 写真図版目次

PL.1	調査区全景	PL.4	出土遺物 1 ~ 13
PL.2	SI001床面全景、遺物出土状況、カマド、 掘り方全景、SI002床面全景、掘り方全景、 SK001・006灰検出状況	PL.5	出土遺物 14 ~ 30
PL.3	SK008・025灰検出状況、SE001全景、 SE005遺物出土状況、SD002・003全景、 SD002・003セクション	PL.6	出土遺物 31 ~ 50

## 第Ⅰ章 調査に至る経緯

平成 27 年 10 月、土地所有者および施工責任者である島田保良氏と積水ハウス株式会社から、高崎市上中居町において計画している集合住宅建設に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である宇名室塙遺構に隣接し、32-6 遺跡内に所在し、また上中居宇名室遺跡に隣接するため、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。同年 10 月 9 日には、市教委へ埋蔵文化財試掘（確認）調査依頼書が提出され、同年 11 月 6 日に試掘（確認）調査を実施した。その結果、古墳時代・中世の土坑・近世の溝状遺構を検出した。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。同年 12 月 16 日に文化財保護法に基づく届出が提出された。なお道路名については「上中居宇名室遺跡 2」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に準じ、平成 27 年 12 月 17 日に島田保良氏と民間調査機関株式会社シン技術コンサル北関東支店との間で契約を締結、また同日に島田保良氏・株式会社シン技術コンサル北関東支店・市教委での三者協定も締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督することとなった。



第 1 図 調査区位置図

## 第Ⅱ章 調査の方法と経過

上中居字名室遺跡2における発掘調査は、集合住宅建設予定地である300m<sup>2</sup>を対象に平成28年2月1日から3月10日まで実施した。

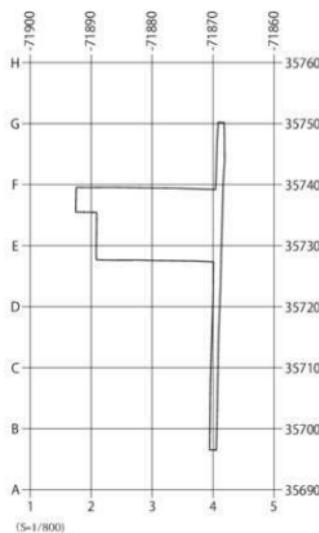
調査は0.25m<sup>3</sup>のバックホウを使用して表土を除去した後、ジョレン・移植ゴテなどを用いて人力で遺構確認・掘削を行った。

作図作業は、平面図はトータルステーション、断面図は手実測によって行った。写真記録は35mmカラーリバーサルフィルム・同モノクロネガフィルム・デジタル一眼レフカメラを使用した。ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影には、6×6判カラーリバーサルフィルム・同モノクロネガフィルム・デジタル一眼レフカメラを使用した。

グリッドの設定にあたっては、世界測地系に基づく平面直角座標第IX系を用いて10mの方眼を組み、任意の名称を付した(第2図)。調査の経過は以下に掲げる。

平成28年

- 2月1日～4日 調査区内駐車場造成工事。
- 2月3日 基準点測量
- 2月5日 調査前状況写真撮影。機材搬入。
- 2月8日 表土除去開始。
- 2月9日 表土除去終了。遺構検出。
- 2月10日 遺構検出状況写真撮影。遺構調査開始。
- 3月7日 全体掃除。空中写真撮影準備。
- 3月8日 空中写真撮影。
- 3月10日 遺構調査終了。機材搬出。



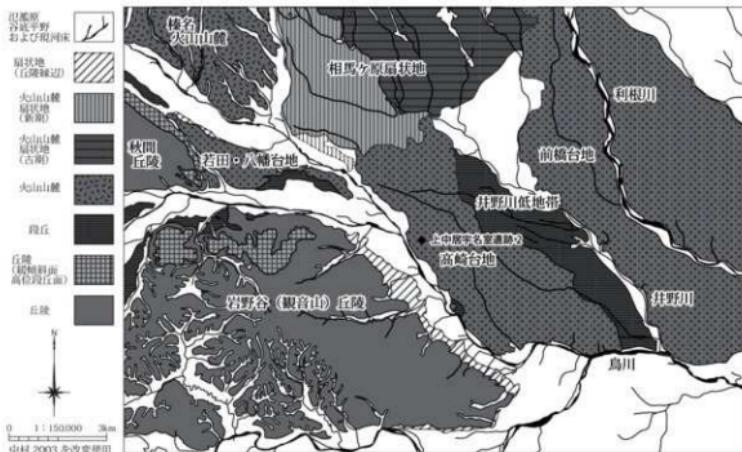
第2図 グリッド設定図

## 第Ⅲ章 遺跡の立地と環境

### 第1節 地理的環境

高崎市は、榛名山や妙義山をはじめとする群馬県西部の山々を背後に、関東平野の北西端に位置する。市の南部には浅間隱山などを水源とする烏川が、碓井川・鍋川・井野川といった支流を集めながら北西から南東へ流れ、伊勢崎市・佐波郡玉村町と埼玉県との県境付近で利根川と合流する。烏川は流域の大半が高崎市に含まれ、左岸には榛名山南面の相馬ヶ原扇状地から続く沖積地が、その東南方に前橋台地が広がる。烏川と井野川に挟まれた地域は、前橋泥流上位に高崎泥流が堆積していることから高崎台地と呼ばれ、本遺跡はこの台地上に立地する（第3図）。

本遺跡の所在する高崎市上中居町は、JR高崎駅から東へ約1.5km、国道354号線南側の市街地内に位置する。一帯は、小河川に沿う自然堤防状の微高地と後背湿地によって複雑な地形となっており、今回の調査においても、東へと緩やかに傾斜する微高地東端の一部が確認されている。



第3図 周辺の地形

### 第2節 歴史的環境

本遺跡の周辺では、発掘・分布調査によって多岐にわたる時代の遺跡が見つかっている。以下では、第4図に示した範囲に所在する遺跡について概観する。

旧石器時代の遺跡は市全体でも少なく、本遺跡周辺ではこれまで確認されていない。

縄文時代の遺跡は、親音山丘陵隣辺部・八幡台地・井野川流域に数多く分布している。本遺跡周辺では、南東約1.5kmにある下中居条里遺跡(45)において、中期後半の竪穴住居跡と土坑が検出されている。また、遺構は検出されていないが、本遺跡から北西約1.1kmにある高闘高根遺跡(20)、南西約2.2kmにある城

南小校庭遺跡（51）において土器・石器が出土している。

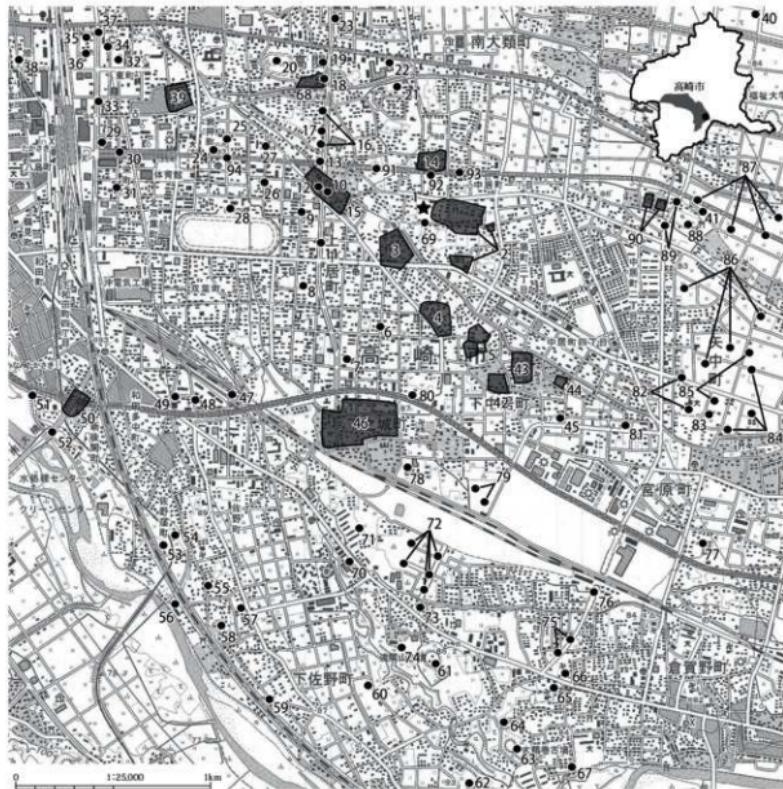
弥生時代の遺跡は旧高崎市域の北東部および北西部の河川沿いに多く分布する。本遺跡周辺では、城南小校庭遺跡において中期後半の竪穴住居跡が、北西約1kmにある高闕堰村遺跡（18）、高闕東沖・村前遺跡（19）などで中期の竪穴住居跡や環濠が検出されている。西約1.2kmにある高崎競馬場遺跡（28）では、1969年の工事の際に中期後半の土器が多量に出土しており、集落の存在した可能性が指摘されている。また、高崎情報団地I遺跡（40）では、後期の竪穴住居跡や方形周溝墓などが検出されている。

古墳時代になると遺跡数は飛躍的に増加する。本遺跡周辺では北約0.2kmに上中居遺跡群（91）、中居町一丁目遺跡（92・93）が確認されており、古墳時代前期～後期にかけての竪穴住居跡・水田跡などが検出されている。南東0.1kmにある上中居宇名室遺跡（69）では、古墳時代後期～終末期の用水路が検出されている。この他、高闕高根遺跡、高闕村前遺跡（16）、下中居条里遺跡において、竪穴住居跡が検出されている。古墳は南0.6kmの地点に全長130mの前方後円墳と推定される越後塚古墳（6）があったとされるが、現在では完全に削平されている。大規模古墳や古墳群が確認されているのは、本遺跡から南約2.5kmにある烏川左岸一帯・粕沢川流域で、前期から後期にかけての古墳群が形成される。粕沢川左岸には、前期から後期初頭にかけて形成された倉賀野古墳群がある。この中で代表的な古墳としては、中期初頭に築造された浅間山古墳（61）、大鶴巻古墳（63）、5世紀後半に築造された小鶴巻古墳（64）などの前方後円墳が挙げられる。また、倉賀野古墳群とは時間的隔たりがあるが、終末期古墳の一本杉古墳（65）と安楽寺古墳（66）も近接している。粕沢川右岸から烏川左岸一帯には、前期から中期初頭まで継続し一度断絶した後に6世紀後半から7世紀にかけて形成された佐野古墳群がある。粕沢川右岸に、前期末から中期初頭に築造されたと推定される庚申塚古墳（60）、大山古墳（62）、茶臼山古墳などの大型円墳を中心に、古墳群が形成される。烏川左岸には、前期末に属すと推定される長者屋敷天王山古墳（59）、6世紀後半に属す藏王塚古墳（57）、塗山古墳（58）などの大型古墳がある。これに加え、下佐野I・II遺跡（56）や舟橋遺跡（54）において小規模な古墳も確認されている。

奈良・平安時代になると、灌漑技術の発達に伴って生産域の拡大が行われ、水田跡が数多く確認されている。本遺跡周辺では、高闕村前II遺跡（17）、高闕高根遺跡、岡久保遺跡（21）、高闕東沖II遺跡（22）、高闕北沖遺跡（23）、岩押I～III遺跡（24・25・94）、上中居平塚II遺跡（27）、栄町I～III遺跡（29～31）、東町I～VI遺跡（32～37）で1108（天仁元）年の浅間山噴火に伴うAs-Bに覆われた水田跡が検出されている。また、北約1.5kmを南東方向に流れる一貫堀川周辺においても、日光町I・II遺跡、飯玉I・II遺跡、飯塚大苗代遺跡、飯塚十二前遺跡においてAs-B下から水田跡が検出されている。これらの中には畦畔を正確に東西南北に合わせたものが含まれており、条里制に則った水田運営がなされていたと考えられている。集落跡については、微高地に位置する上大類北宅地遺跡、上大類薬師遺跡、宿大類村西遺跡、天田・川押遺跡などで確認されている。

中世になると、多くの城館・環濠屋敷が各所に築かれるようになる。本遺跡の東には宇名室環濠遺構（2）、西には新堀砦（3）、南東には下中居福田屋敷（42）、下中居佐藤屋敷（43）、道場遺跡（44）などの中世環濠屋敷が確認されている。大規模な城郭跡としては、本遺跡から南1kmの地点に和田下之城（46）が、南東3kmに倉賀野城が確認されている。

近世になると、高崎は中山道・三国街道の宿場として陸上交通の要衝となり、また高崎城の城下町として発展する。1783（天明三）年の浅間山噴火の際には周辺でも大規模な被害があったと考えられ、上中居西屋敷II遺跡、岩押I・III遺跡、栄町I～III遺跡、東町III・V遺跡、上佐野越遺跡などでAs-Aに埋没した田畠を復旧した痕跡が確認されている。



第4図 周辺の遺跡

第1表 周辺遺跡一覧表(1)

番	遺跡名	主な時代	主な遺跡	参考文献
1	上中町字名古屋遺跡2	古墳・中世・近世	古墳後期住居・土坑・井戸・溝、中世土坑・井戸、近世土坑・溝	—
2	宇文堀環濠遺構	中世	中世環濠複数	「新編 高崎市史 資料編3 中世1」(1996) 「高崎古城周辺の研究」下巻(1972)
3	新堀跡	中世	中世跡	「新編 高崎市史 資料編3 中世1」(1996)
4	下中町新井堀敷	中世	中世環濠複数	「新編 高崎市史 資料編3 中世1」(1996)
5	高尾原敷	中世	中世環濠複数	「新編 高崎市史 資料編3 中世1」(1996)
6	越後塚古墳	古墳	前方後円墳	「新編 高崎市史 資料編3 中世1」(1996)
7	上中町鳥薙跡道跡	古代	B下水田	遺跡合68集(1997)
8	上中町箭神1・II遺跡	古代	B下水田	遺跡合62集(1996), 市歴卷158集(1998)
9	上中町西岸遺跡	古代	古代遺跡, B下水田	遺跡合24集(1994)
10	上中町西岸Ⅱ遺跡	中世・近世・近代	中世～近世遺跡・井戸・土坑	遺跡合59集(1997)
11	上中町西岸敷Ⅲ遺跡	古代	B下水田	遺跡合70集(1997)
12	上中町住葉跡道跡	古代・中世・近世	B下水田、中世環濠複数、近世土坑墓・土坑・井戸	市歴卷101集(1989)
13	上中町住葉跡Ⅱ遺跡	古墳・中世	古墳前期卵圓墓・住居・小路、中世環濠複数、墓坑等	市歴卷122集(1992)
14	丸茂塚敷	中世	中世環濠複数	「新編 高崎市史 資料編3 中世1」(1996)
15	反町城	中世	中世城	市歴卷101集(1989), 小教卷122集(1992)

第2表 周辺遺跡一覧表(2)

番	遺跡名	主な時代	主な遺構	参考文献
16	高岡村前遺跡	弥生・古墳・中世	弥生後期住居、古墳住居・廻立、中世廻立・土坑・井戸	市教委126集(1993)
17	高岡村前Ⅱ遺跡	古代・中世	B下水田・中世廻立・井戸・水路	市教委135集(1995)
18	高岡村前廻	弥生・中～近世	弥生中期廻、中～近世廻廻	市教委116集(1992)
19	高岡村沖・村前遺跡	弥生・古墳・古代・中世以降	弥生中期住居、古墳住居・廻立、古代水路、中世以降廻立・井戸	市教委135集(1995)
20	高岡高根遺跡	古墳・古代・中世	古墳住居、古代住居・井戸、B下水田・中世廻立・土坑・井戸	市教委244集(2009)
21	岡内保道跡	古代	B下水田	市教委88集(1988)
22	高岡東沖Ⅱ遺跡	古代	B下水田	遺調会52集(1996)
23	高岡東沖遺跡	古代	B下水田	市教委120集(1992)
24	岩押町Ⅰ遺跡	古代	B下水田、A下水田廻旧廻	遺調会19集(1994)
25	岩押町Ⅱ遺跡	古代	B下水田	遺調会56集(1996)
26	上中田平塚Ⅰ遺跡	古代	B下水田	遺調会47集(1996)
27	上中田平塚Ⅱ遺跡	古代	B下水田	遺調会53集(1996)
28	高崎最盛堀廻跡	弥生	弥生住居・土器	1969年高崎大学調査、2015年～都理文調査
29	宋町I遺跡	古代・近世	B下水田、A下水田廻旧廻	遺調会43集(1996)
30	宋町II遺跡	古代・近世	B下水田、A下水田廻旧廻	遺調会19集(1999)
31	宋町Ⅲ遺跡	古代・近世	B下水田、A下水田廻旧廻	市教委187集(2004)
32	史町I遺跡	古代・近世	B下水田、近世土坑・酒	市教委98集(1989)・301集(2012)
33	南町II遺跡	古代	B下水田	市教委121集(1992)
34	史町Ⅲ遺跡	弥生・古墳・古代・近世	弥生住居・C下水田、B下水田、A下水田他	市教委130集(1994)
35	史町IV遺跡	弥生・古代・中～近世	弥生土坑・酒、B下水田、中～近世廻	市教委138集(1995)
36	史町V遺跡	古代・近世・近代	B下水田、A下水田廻旧廻、工場跡	市教委146集(1996)
37	史町VI遺跡	古代	B下水田	遺調会78集(2000)
38	知町I遺跡	古代	9世紀供水下水田、B下水田	市教委140集(1996)
39	岡田山廻	中世	中世廻廻	「高崎漫歩」(1989)
40	高崎曾根廻地Ⅰ遺跡	弥生・古墳	弥生住居・方削溝溝・土坑・古墳	遺調会55集(1997)
41	柴崎櫻井廻	中世	複数穴頭跡	「新編 高崎市史 資料編3中世1」(1996)
42	下仁坂福田廻	中世	中世廻廻	「新編 高崎市史 資料編3中世1」(1996)
43	下仁坂佐藤廻	中世	中世廻廻	「新編 高崎市史 資料編3中世1」(1996)
44	道場廻	中世	中世廻廻	「新編 高崎市史 資料編3中世1」(1996)
45	下仁坂裏廻跡Ⅰ～Ⅲ	縄文中期・古墳・古代・近世	縄文住居・古墳・平安住居・土坑・酒・井戸・廻立	市教委145・159集(1996)ほか
46	和田子之城	中世	中城壁	下之城第一～内金・和田子之城城址。(1985)
47	双葉町I遺跡	古墳・古代・近世	古墳後期住居・酒、B下水田・近世廻・整穴状廻	遺調会48集(1996)
48	上野野越遺跡	古代・近世	B下水田、A下水田廻旧廻	群埋文300集(2002)
49	和田寺中遺跡	古代	B下水田	市教委93集(1989)
50	新後園廻	中世	中世廻廻	「高崎の歴史散歩」(2000)
51	城南小学校遺跡	縄文・弥生	縄文I・過擣物(み)、弥生中～後期住居等	市教委1集(1973)
52	新御寺廻跡	古墳・古代	古墳住居・古墳・平安住居等	市教委112集(1991)
53	上野野斎遺跡	古墳・古代	古墳住居・古墳・平安住居等	市教委121集(1992)、遺調会22・23集(1992)
54	舟橋廻	古墳・古代・中世・近世	古墳住居・土坑・酒、平安住居・土坑・中世井戸・近世土坑等	群埋文92集(1989)
55	御堂原古墳	古墳	前方後円墳	「新編 高崎市史 資料編1 始始古代1」(1996)
56	下野原Ⅰ・Ⅱ遺跡	縄文・古墳・古代	縄文住居・土坑・古墳住居・古墳・酒・溝溝溝・平安住居・土坑・酒等	群埋文11集(1989)
57	藏王塚古墳	古墳	円墳	「日本考古学年報10」(1963)
58	津山塚	古墳	前方後円墳	「新編 高崎市史 資料編1 始始古代1」(1996)
59	長者屋敷天王山古墳	古墳	前方後円墳?	「新編 高崎市史 資料編1 始始古代1」(1996)
60	唐串塚古墳	古墳	円墳	「新編 高崎市史 資料編1 始始古代1」(1996)
61	茂鷲塚古墳	古墳	前方後円墳	「新編 高崎市史 資料編1 始始古代1」(1996)
62	大山古墳	古墳	円墳	「新編 高崎市史 資料編1 始始古代1」(1996)
63	大鶴塚古墳	古墳	前方後円墳	「新編 高崎市史 資料編1 始始古代1」(1996)
64	小鶴塚古墳	古墳	前方後円墳	「新編 高崎市史 資料編1 始始古代1」(1996)
65	一本松古墳	古墳	円墳	「新編 高崎市史 資料編1 始始古代1」(1996)
66	安榮寺古墳	古墳	円墳	「新編 高崎市史 資料編1 始始古代1」(1996)
67	貞觀万福寺前遺跡	縄文・古墳	縄文住居・土坑・古墳・古墳住居・古墳・方形削溝溝	遺調会4集(1983)
68	高岡廻	中世	中世廻廻	「新編 高崎市史 資料編3中世1」(1996)
69	上中田宇室前遺跡	古墳・古代	古墳後期・土坑	市教委254集(2010)
70	貞觀西上ノ六遺跡	古墳・平安・中世	古墳・平安住居・廻立・土坑・酒・瓶・中世廻穴・土坑・酒等	市教委268集(2010)
71	下之城削沖Ⅰ・Ⅱ遺跡	古代・中世・近世	古代住居・B下水田・中世廻・土坑・近世廻・A下水田廻旧廻	市教委192集(2004)・195集(2005)
72	下之城村前Ⅰ～Ⅴ遺跡	古墳・古代・中世・近世	古墳住居・B下水田・中世廻・土坑・A下水田廻旧廻	遺調会50集(1996)、市教委120集(1992)ほか
73	貞觀上新野Ⅰ遺跡	古代	B下水田	市教委174集(2001)
74	貞觀東上正六遺跡	古墳	浅間山古墳の周囲	市教委153集(1997)・158集(1998)

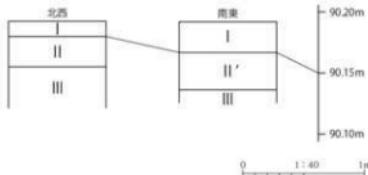
第3表 周辺遺跡一覧表(3)

番	遺跡名	主な時代	主な遺構	参考文献
75	倉賀野条理I～V遺跡	古代	古代住居・B下水田	市教委 172集(2001)
76	倉賀野横須道跡	古代	B下水田	市教委 164集(1999)
77	倉賀野下天神道跡I～Ⅳ	古墳・古代・中世	古墳集石遺構・平安住居・B下水田・中世掘立・堀・井戸	遺調会 40集(1995)・202集(2006)
78	下之城村西口遺跡	古代	B下水田	遺調会 50集(1996)
79	下之城村東口I・II遺跡	古代	B下水田	遺調会 1集(1983)・5集(1984)
80	下之城村北口遺跡	古代	B下水田	市教委 120集(1992)
81	矢中村西口遺跡	古代	B下水田	遺調会 44集(1996)
82	宝昌寺遺跡	古代	古代住居・B下水田	市教委 43集(1983)
83	矢中村北C遺跡	古代・中世	B下水田・中世溝・城館・堀	遺調会 3集(1983)
84	下村北・砂内遺跡	古代・中世	B下水田・中世館	市教委 77集(1986)
85	柴崎前・村北B遺跡	古代	平安住居・B下水田	市教委 52集(1984)
86	村北A・天主前遺跡	古代・近世	平安溝・B下水田・近世A島	市教委 35集(1982)・40集(1983)
87	柴崎遺跡群I～III	古代	平安掘立・B下水田	市教委 62集(1985)・70集(1989)(ほか)
88	高井解敷	中世	中世城館	「新編 高崎市史 資料編3中世1」(1996)
89	西浦・隼人・吹手西遺跡	古墳・古代	古墳集石・溝・土塁・平安住居・溝	市教委 113集(1991)・118集(1992)
90	柴崎西浦遺跡	中世	方形礎か?	「新編 高崎市史 資料編3中世1」(1996)
91	上中原一丁目遺跡群	縄文・古墳・古代・中世・近世	縄文集石・土坑・古墳住居・方形礎溝墓地・古代住居・水田・中世溝・井戸跡	市教委 232集(2009)
92	中原町一丁目遺跡	縄文・古墳・平安	古墳住居・溝・方形礎溝墓	市教委 255集(2010)
93	中原町一丁目遺跡3	縄文・古墳・平安	縄文住居・古墳溝・平安溝・水田	都理文 509集(2010)
94	岩津畠遺跡	古代・近世	B下水田・溝・A下水田復旧痕	都理文 520集(2011)

\*参考文献は以下の略称を使用した。群馬県理政文化財調査事業団=群理文、高崎市教育委員会=市教委、高崎市遺跡調査会=遺調会

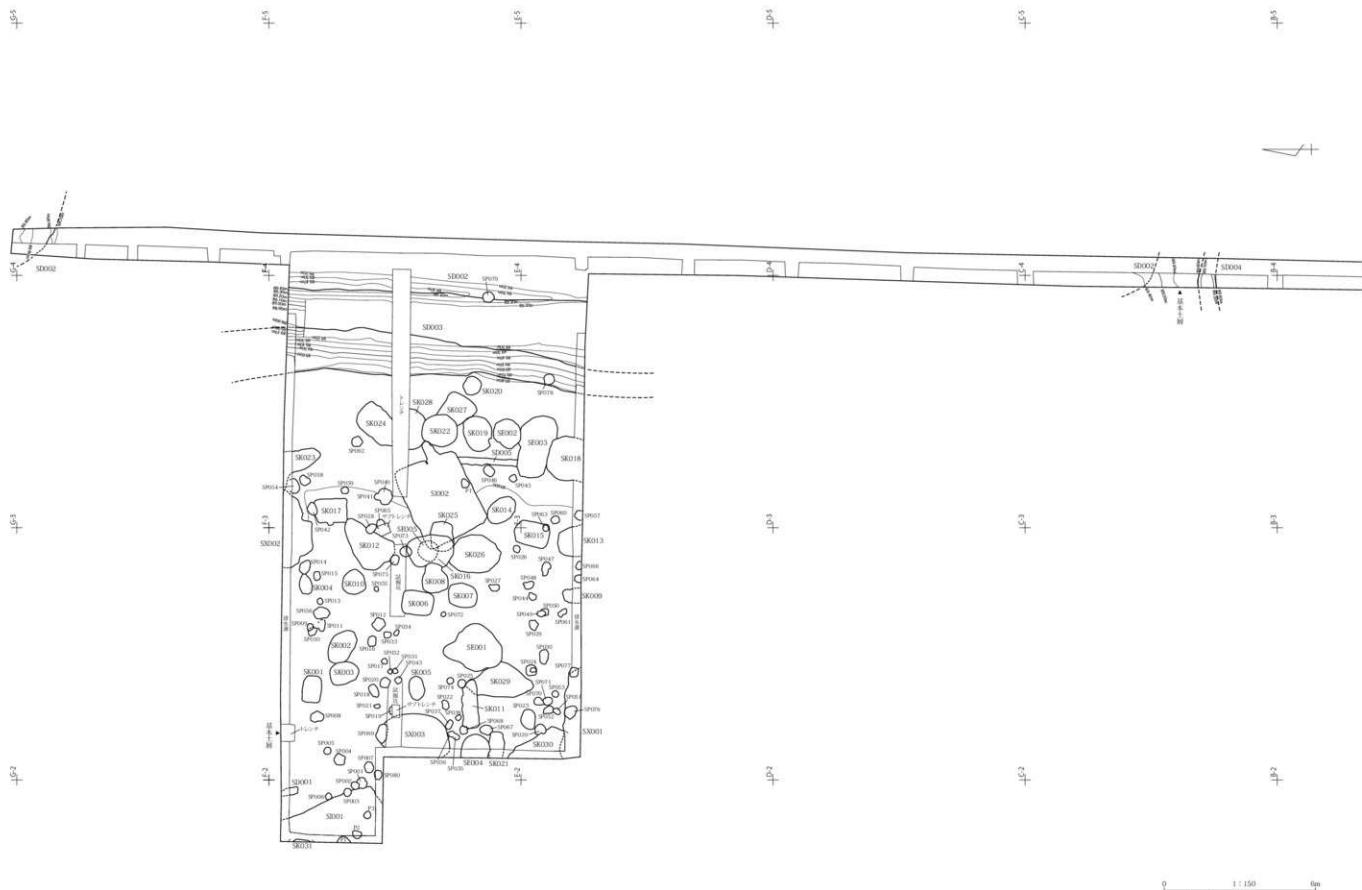
## 第IV章 基本層序

本遺跡では、I～III層の基本土層を確認した。I層は現代の耕作土である。II層は高崎泥流が2次堆積したと思われる水成堆積層で、微量の白色軽石と小礫を含む明黄褐色土である。II'層は調査区南端部のみで検出されており、平成21年度に行われた上中居宇名室遺跡の基本土層V層に相当する黒褐色土である。II層・II'層上面が遺構確認面である。II層・II'層の上部は、I層を形成した耕作によって削平されたと思われ、遺物包含層は確認できなかった。III層はII層と同じ高崎泥流が2次堆積したものと思われるが、大小の礫を多量に含み、粘性が強い。



基本土層	
I 層	灰色土 (SY4/1) 表土。現代耕作土。
II 層	明黄褐色土 (10YR6/6) 粘性弱。小礫 ( $\phi 1\sim 5cm$ ) 少量。高崎泥流。遺構確認面。
II' 層	黒褐色土 (10YR2/2) 粘性中。小礫微量。遺構確認面。
III 層	灰黄色土 (2.5Y7/2) シルト質。粘性強。礫 ( $\phi 1\sim 20cm$ ) 中量。高崎泥流。

第5図 基本土層柱状図



第6図 遺構全体図



## 第V章 検出された遺構と遺物

本遺跡で検出された遺構は、竪穴住居跡 2 軒、土坑 31 基、井戸 5 基、溝 5 条、性格不明遺構 3 基、ピット 80 基である。遺構確認は II 層および II' 層上面で行った。遺構観察表・遺物観察表は、紙面の都合上、章末にまとめて掲載している。

### 第 1 節 竪穴住居跡

竪穴住居跡は 2 軒 (SI001・002) 検出された。両住居跡は II 層を掘り込んだ状態で検出されているが、掘り込みが浅いことやカマドの大部分が失われていることなどから、II 層上部とともに削平を受けていると思われる。

SI001 (第 7・8 図 第 4・11 表 PL2・4)

位 置 E-1 グリッドに位置する。SPO01 ~ 003、SK031 より古い。大部分が調査区外であり、住居南東部 1/3 程度が検出された。

形状・規模 平面形状は推定方形で、主軸方向 N-65° E、残存する長軸(北西—南東)4.10m、短軸(南西—北東)2.35m、確認面から床面までの深さ 0.35 ~ 0.55m を測る。標高は 89.90m 程度である。

覆 土 As-B と思われる白色軽石と、焼土ブロックを微量に含む褐色土を主体とする。

柱 穴 ピットが 3 基検出され、このうち P1 が柱穴と考えられる。各ピットの規模は P1 が 0.54m、P2 が 0.35m、P3 が 0.26m、床面からの深さは P1 が 0.66m、P2 が 0.57m、P3 が 0.12m を測る。

カ マ ド 住居の南東隅に構築される。燃焼部は壁内にあったと思われるが、大部分が壊されており、左袖が一部残存しているのみである。

遺 物 土師器の甕 1 点 (1)、壺 2 点 (2・3) を図示した。1 と 2 は床面、3 は掘り方から出土した。3 は、床面から出土した 2 と比較して厚みがあり、焼成が悪い。この他に、土師器の壺と甕破片が少量出土している。

時 期 出土遺物から、6 世紀末～7 世紀初頭と考えられる。

SI002 (第 9・10 図 第 4・11 表 PL2・4)

位 置 E-2・E-3 グリッドに位置する。SK016・022・025 より古く、SE005・SD005 より新しい。

形状・規模 平面形状は長方形で、主軸方向 N-63° E、長軸(北東—南西)3.40m、短軸(北西—南東)2.20m、確認面から床面までの深さ 0.05 ~ 0.09m を測る。標高は 89.80m 程度である。

覆 土 焼土粒と炭化物、小礫を少量含む黒褐色土を主体とする。

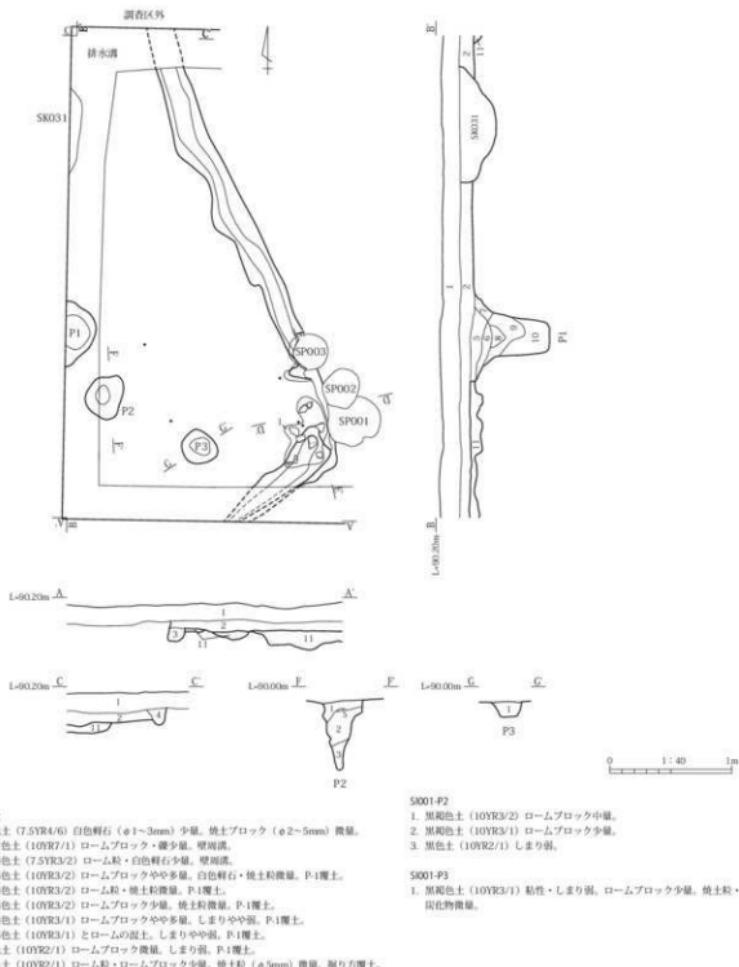
柱 穴 南東壁中央付近にピット 1 基が検出されたが、他に対応する柱穴が確認できず、規格性が認められないため柱穴とは断定できない。

カ マ ド 北東壁中央からやや南寄りの位置に構築される。遺存状態は悪く、袖は完全に失われていた。燃焼部は壁内にあり、使用面から掘り方にかけて被熱による赤化した箇所が一部認められ、煙道は大半が削平されていた。

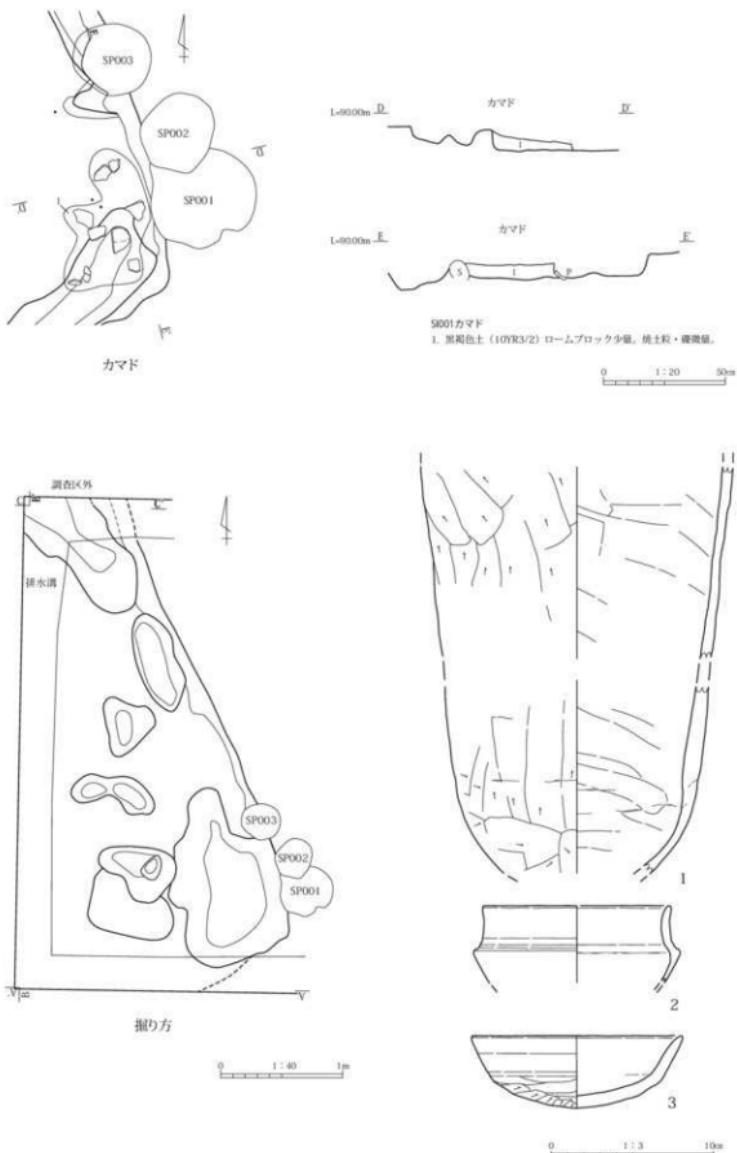
遺 物 少量の須恵器、土師器が出土しており、須恵器の甕 1 点 (4)、土師器の壺 1 点 (5)、壺 1 点 (6)、S 字甕 1 点 (7)、磨石 1 点 (8) を図示した。4 はカマドから出土しており、肩～胸部にかけ

ての破片である。肩には櫛描きによる波状文が施される。6は掘り方から出土した壺底部の破片で、底面には木葉痕が残る。7は混入した可能性がある。

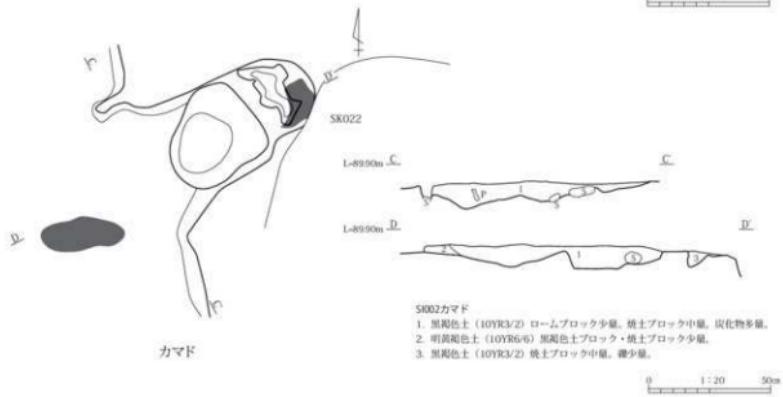
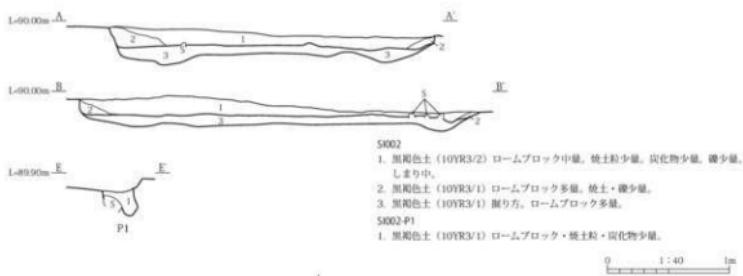
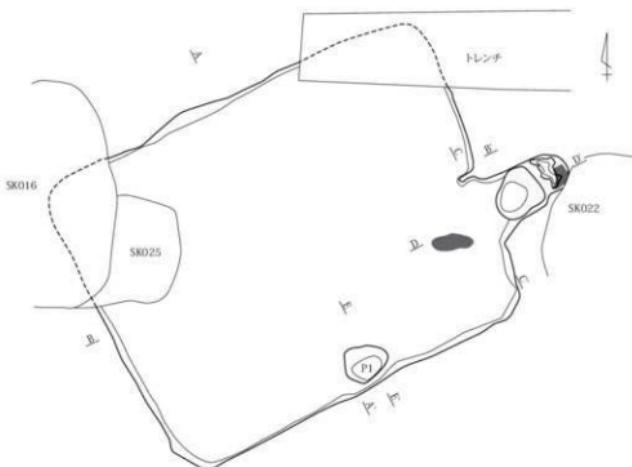
時 期 出土遺物から、6世紀末～7世紀初頭と考えられる。



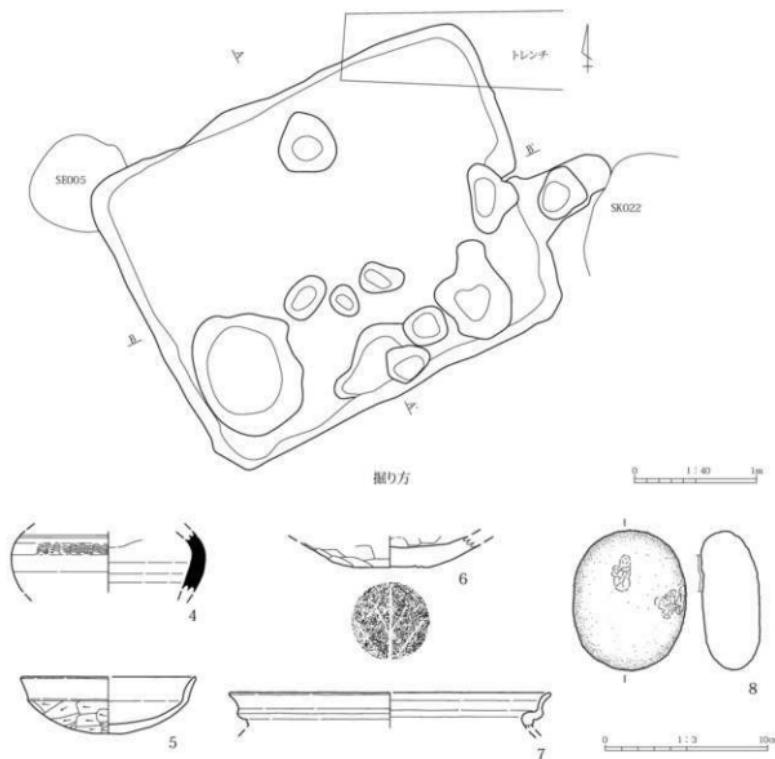
第7図 SI001 (1)



第8図 SI001 (2)



第9図 SI002 (1)



第10図 SI002 (2)

## 第2節 土坑

土坑は31基検出され、形状・覆土の特徴・出土遺物・重複関係から古墳時代後期と近世に大別される。遺物は、SK017から出土した土師器の壺1点(9)、SK018から出土した軟質陶器の鍋1点(10)を図示した。

### SK001 (第11図 第5表 PL.2)

位 置 E-2 グリッドに位置する。

形 状・規 模 平面形状は長方形、断面形状は弧状である。長軸(東一西) 1.05m、短軸(北一南) 0.75m、深さ 0.22m を測る。

覆 土 焼土粒と炭化物をわずかに含む暗褐色土を主体とする。底面直上に厚さ 1mm 程度の灰が堆積する。

遺 物 少量の土師器破片が出土したが、図示できるものはなかった。

時 期 出土遺物から、古墳時代後期と考えられる。

SK002 (第11図 第5表)

位 置 E-2 グリッドに位置する。SK003より古い。

形状・規模 平面形状は楕円形、断面形状は弧状である。長軸(北西—南東)1.50m、短軸(北西—南東)0.92m、深さ0.11mを測る。

覆 土 焼土粒を含む黒褐色土を主体とする。

遺 物 遺物は出土しなかった。

時 期 重複関係から、古墳時代後期と推定される。

SK003 (第11図 第5表)

位 置 E-2 グリッドに位置する。SK002より新しい。

形状・規模 平面形状は楕円形、断面形状は弧状である。長軸(北西—南東)1.15m、短軸(北西—南東)0.87m、深さ0.23mを測る。

覆 土 焼土粒をわずかに含む黒褐色土を主体とする。

遺 物 少量の土師器片が出土したが、図示できるものはなかった。

時 期 覆土の特徴から、古墳時代後期と推定される。

SK004 (第11図 第5表)

位 置 E-2 グリッドに位置する。SP014より古い。

形状・規模 平面形状は楕円形、断面形状は弧状である。長軸(東—西)0.78m、短軸(北—南)0.50m、深さ0.08mを測る。

覆 土 ロームブロックを多量に含む黒褐色土を主体とする。

遺 物 遺物は出土しなかった。

時 期 覆土の特徴と重複関係から、古墳時代後期と推定される。

SK005 (第11図 第5表)

位 置 E-2 グリッドに位置する。

形状・規模 平面形状は楕円形、断面形状は弧状である。長軸(東—西)0.95m、短軸(北—南)0.59m、深さ0.12mを測る。

覆 土 暗褐色土を主体とする。

遺 物 土師器の破片がわずかに出土したが、図示できるものはなかった。

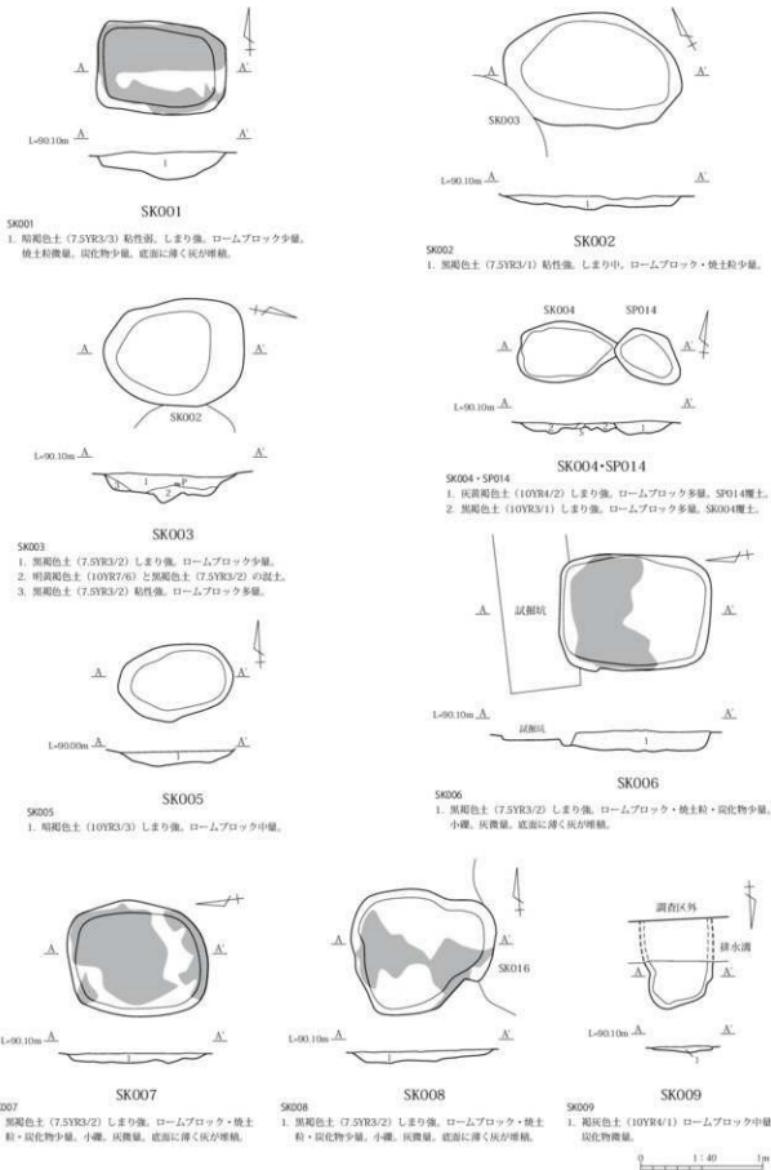
時 期 出土遺物から、古墳時代後期と考えられる。

SK006 (第11図 第5表 PL.2)

位 置 E-2 グリッドに位置する。

形状・規模 平面形状は長方形、断面形状は弧状である。長軸(北—南)1.24m、短軸(東—西)0.94m、深さ0.16mを測る。

覆 土 焼土粒と炭化物、灰を少量含む黒褐色土を主体とする。底面直上に厚さ1mm程度の灰が堆積する。



第 11 図 SK001 ~ 009・SP014

- 遺物 土師器の破片がわずかに出土したが、図示できるものはなかった。
- 時期 出土遺物と覆土の特徴から、古墳時代後期と考えられる。
- SK007 (第 11 図 第 5 表)
- 位置 E-2 グリッドに位置する。
- 形状・規模 平面形状は長方形、断面形状は弧状である。長軸（北—南）1.13m、短軸（東—西）0.95m、深さ 0.07m を測る。
- 覆土 焼土粒と炭化物、灰を少量含む黒褐色土を主体とする。底面直上に厚さ 1mm 程度の灰が堆積する。
- 遺物 土師器の破片がわずかに出土したが、図示できるものはなかった。
- 時期 出土遺物と覆土の特徴から、古墳時代後期と考えられる。
- SK008 (第 11 図 第 5 表 PL.3)
- 位置 E-2 グリッドに位置する。SK016 より古い。
- 形状・規模 平面形状は楕円形、断面形状は弧状である。長軸（東—西）1.20m、短軸（北—南）1.03m、深さ 0.09m を測る。
- 覆土 焼土粒と炭化物、灰を少量含む黒褐色土を主体とする。底面直上に厚さ 1mm 程度の灰が堆積する。
- 遺物 遺物は出土しなかった。
- 時期 覆土の特徴から、古墳時代後期と考えられる。
- SK009 (第 11 図 第 5 表)
- 位置 D-2 グリッドに位置する。南側 1/2 は調査区外となる。
- 形状・規模 平面形状は長方形と推定され、断面形状は弧状である。短軸（北—南）1.03m、深さ 0.09m を測る。
- 覆土 炭化物をわずかに含む褐灰色土を主体とする。
- 遺物 土師器の破片がわずかに出土したが、図示できるものはなかった。
- 時期 出土遺物から、古墳時代後期と考えられる。
- SK010 (第 12 図 第 5 表)
- 位置 E-2 グリッドに位置する。
- 形状・規模 平面形状は円形、断面形状は U 字状である。長軸（東—西）0.95m、短軸（北—南）0.93m、深さ 0.52m を測る。
- 覆土 磬を含む暗褐色土を主体とし、上層にやや砂質の灰黄褐色土、下層に粘性の強い黒褐色土が堆積する。
- 遺物 土師器の破片がわずかに出土したが、図示できるものはなかった。
- 時期 出土遺物から、古墳時代後期と考えられる。
- SK011 (第 12 図 第 5 表)
- 位置 E-2 グリッドに位置する。SK029・SP025・068 より新しい。
- 形状・規模 平面形状は長方形、断面形状は弧状である。長軸（東—西）1.90m、短軸（北—南）0.62m、

深さ 0.14m を測る。

覆	土	炭化物を少量含む灰黄褐色の砂質土を主体とする。
遺	物	須恵器、土師器、陶器、磁器の小破片がわずかに出土したが、図示できるものはなかった。
時	期	出土遺物と覆土の特徴から、近世以降と推定される。

#### SK012 (第 12 図 第 5 表)

位	置	E-2・E-3 グリッドに位置する。SP028・075 より古い。SK017 より新しい。
形状・規模		平面形状は不整形、断面形状は階段状である。長軸（北東—南西）2.23m、短軸（北西—南東）1.53m、深さ 0.63m を測る。
覆	土	粘性が強く、焼土粒をわずかに含む黒褐色土を主体とする。
遺	物	土師器の破片が少量出土したが、図示できるものはなかった。
時	期	出土遺物と覆土の特徴から、古墳時代後期と考えられるが、倒木痕の可能性もある。

#### SK013 (第 12 図 第 5 表)

位	置	D-2・D-3 グリッドに位置する。南半は調査区外となる。
形状・規模		平面形状は楕円形で推定され、断面形状は箱型である。短軸（東—西）1.17m、深さ 0.22m を測る。
覆	土	焼土ブロックをわずかに含む黒色土を主体とする。
遺	物	遺物は出土しなかった。
時	期	不明。

#### SK014 (第 12 図 第 5 表)

位	置	E-3 グリッドに位置する。
形状・規模		平面形状は楕円形、断面形状は弧状である。長軸（北西—南東）1.25m、短軸（北東—南西）0.87m、深さ 0.30m を測る。
覆	土	黒褐色土を主体とする。
遺	物	遺物は出土しなかった。
時	期	覆土の特徴と形状から、古墳時代後期と推定される。

#### SK015 (第 12 図 第 5 表)

位	置	D-2・D-3・E-2・E-3 グリッドに位置する。SP063 より新しい。
形状・規模		平面形状は長方形、断面形状は弧状である。長軸（北東—南西）1.40m、短軸（北西—南東）0.95m、深さ 0.13m を測る。
覆	土	黒褐色土を主体とする。
遺	物	土師器の破片がわずかに出土したが、図示できるものはなかった。
時	期	出土遺物と覆土の特徴から、古墳時代後期と考えられる。

#### SK016 (第 13 図 第 5 表)

位	置	E-2 グリッドに位置する。SK025・SP073 より古く、SI002・SK008・026・SE005 より新しい。
形状・規模		平面形状は楕円形、断面形状は弧状である。長軸（北西—南東）1.83m、短軸（北東—南西）1.19m、深さ 0.13m を測る。

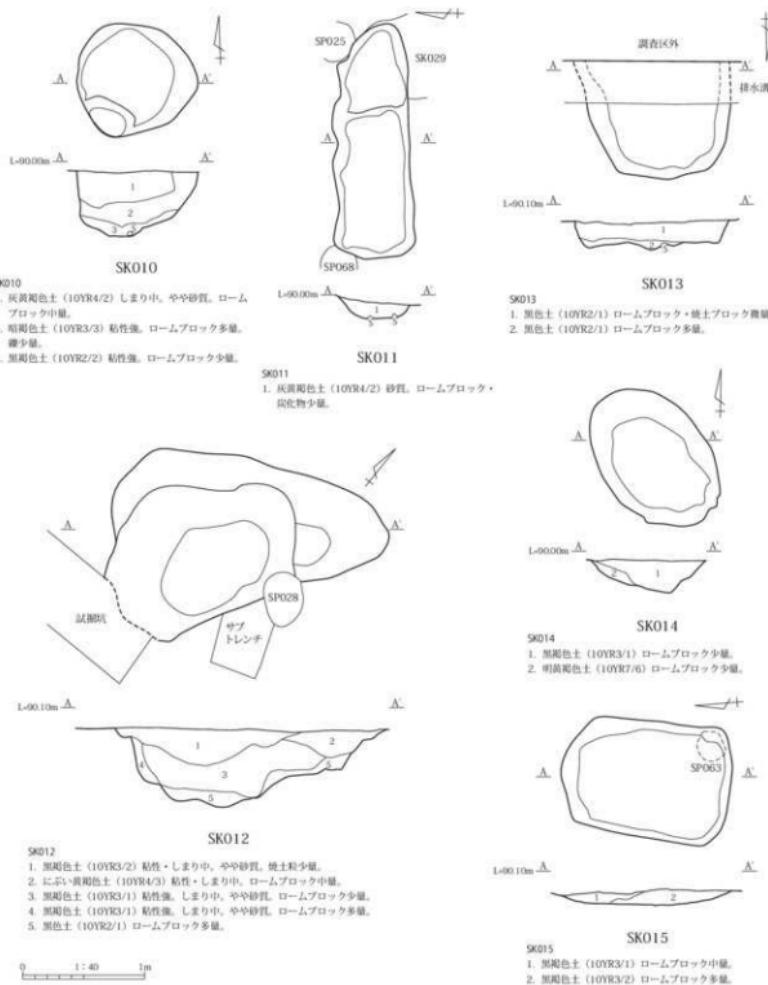
覆土 焼土粒と灰を少量含む黒褐色土を主体とする。底面直上に厚さ1mm程度の灰が堆積する。

遺物 須恵器と土師器の破片がわずかに出土したが、図示できるものはなかった。

時期 出土遺物と覆土の特徴から、古墳時代後期と考えられる。

SK017 (第13図 第5・12表 PL.4)

位置 E-3 グリッドに位置する。SK012・SP042より古い。



第12図 SK010～015

**形状・規模** 平面形状は長方形、断面形状は箱型である。残存する長軸(北一南)1.30m、短軸(東一西)1.04m、深さ 0.23m を測る。

**覆土** 炭化物をわずかに含む黒褐色土を主体とする。

**遺物** 土師器や石製品が少量出土しており、このうち土師器の壺 1 点 (9) を図示した。

**時** 期 出土遺物から、6世紀末～7世紀初頭と考えられる。

#### SK018 (第 13・14 図 第 5・12 表 PL4)

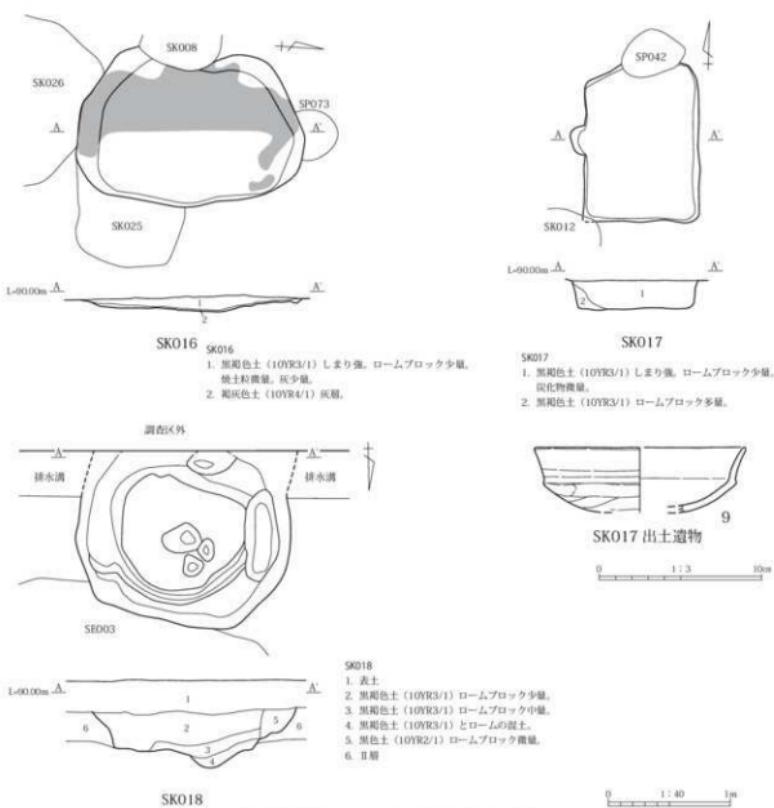
**位置** D-3 グリッドに位置する。南側の一部が調査区外となり、SE003 より新しい。

**形状・規模** 平面形状は円形、断面形状は不整形である。長軸(東一西)1.76m、深さ 0.45m を測る。

**覆土** 黒褐色土を主体とする。

**遺物** 土師器や陶器の破片が出土しており、このうち軟質陶器の鍋 1 点 (10) を図示した。

**時** 期 出土遺物と重複関係から、近世と考えられる。



第 13 図 SK016～018・SK017 出土遺物

SK019 (第14図 第5表)

位 置 E-3 グリッドに位置する。  
形状・規模 平面形状は楕円形、断面形状は弧状であるが、壁際が溝状に掘り込まれる。長軸（北東—南西）1.42m、短軸（北西—南東）1.12m、深さ 0.17m を測る。  
覆 土 ロームブロックを含む黒褐色土を主体とする。  
遺 物 土師器の壺破片がわずかに出土したが、図示できるものはなかった。  
時 期 出土遺物は古墳時代後期のものだが、形状から SK018・022 と同じく近世の可能性がある。

SK020 (第14図 第5表)

位 置 E-3 グリッドに位置する。  
形状・規模 平面形状は円形、断面形状はU字状である。長軸（東—西）0.73m、短軸（北—南）0.72m、深さ 0.42m を測る。  
覆 土 黒褐色砂質土を主体とする。  
遺 物 土師器の壺・壺破片がわずかに出土したが、図示できるものはなかった。  
時 期 出土遺物から、古墳時代後期と考えられる。

SK021 (第14図 第5表)

位 置 E-2 グリッドに位置する。西側の一部が調査区外となり、SE004 より古い。SP067 より新しい。  
形状・規模 平面形状は長方形、断面形状は箱形である。短軸（北—南）0.61m、深さ 0.13m を測る。  
覆 土 小礫を含む褐灰色土を主体とする。  
遺 物 遺物は出土しなかった。  
時 期 不明。

SK022 (第14図 第5表)

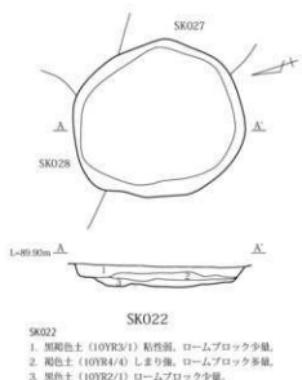
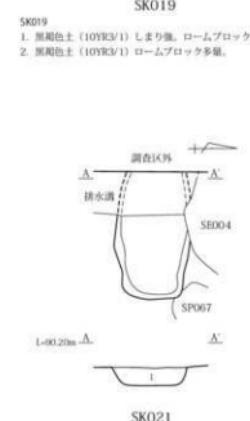
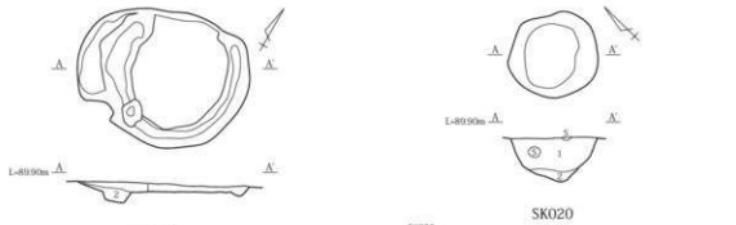
位 置 E-3 グリッドに位置する。SI002・SK027・028 より新しい。  
形状・規模 平面形状は楕円形、断面形状は凹凸のある皿状である。長軸（北—南）1.40m、短軸（東—西）1.25m、深さ 0.35m を測る。  
覆 土 黒褐色土を主体とする。  
遺 物 土器破片、灯明皿などの陶器破片、磁器破片が少量出土したが、図示できるものはなかった。  
時 期 出土遺物から、近世と考えられる。

SK023 (第15図 第5表)

位 置 E-3 グリッドに位置する。北側の一部が調査区外となる。  
形状・規模 平面形状は楕円形、断面形状は台形である。短軸（東—西）1.04m、深さ 0.45m を測る。  
覆 土 燃土ブロックをわずかに含む褐灰色土、黒褐色土を主体とする。  
遺 物 陶器の破片がわずかに出土したが、図示できるものはなかった。  
時 期 出土遺物から、近世以降と考えられる。

SK024 (第15図 第5表)

位 置 E-3 グリッドに位置する。南側の一部が試掘坑と重複する。



第 14 図 SK018 出土遺物・SK019 ~ 022

**形状・規模** 平面形状は長方形と推定され、断面形状は A-A' は U 字状である。長軸（北東—南西）1.78m、短軸（北西—南東）0.90m、深さ 0.56m を測る。

**覆 土** 粘性が強く、焼土粒をわずかに含む黒褐色土を主体とする。

**遺 物** 遺物は出土しなかった。

**時 期** 不明。

#### SK025 (第 15 図 第 5 表 PL.3)

**位 置** E-2・E-3 グリッドに位置する。SK016 より古く、SI002・SE005 より新しい。

**形状・規模** 平面形状は長方形と推定され、断面形状は弧状である。長軸（東—西）は推定 1.10m、短軸（北—南）0.83m、深さ 0.13m を測る。

**覆 土** 黒褐色土を主体とする。底面直上に厚さ 1mm 程度の灰が堆積する。

**遺 物** 遺物は出土しなかった。

**時 期** 覆土の特徴と重複関係から、古墳時代後期と考えられる。

#### SK026 (第 15 図 第 5 表)

**位 置** E-2 グリッドに位置する。SK016 より古い。

**形状・規模** 平面形状は楕円形、断面形状は弧状である。長軸（北—南）1.75m、短軸（東—西）1.48m、深さ 0.07m を測る。

**覆 土** 黒褐色土を主体とする。底面直上に厚さ 1mm 程度の灰が堆積する。

**遺 物** 遺物は出土しなかった。

**時 期** 覆土の特徴と重複関係から、古墳時代後期と考えられる。

#### SK027 (第 15 図 第 5 表)

**位 置** E-3 グリッドに位置する。SK022 より古い。

**形状・規模** 平面形状は長方形と推定され、断面形状は弧状である。短軸（北東—南西）1.25m、深さ 0.07m を測る。

**覆 土** 炭化物を少量含む黒褐色土を主体とする。

**遺 物** 遺物は出土しなかった。

**時 期** 覆土の特徴と重複関係から近世以前と考えられるが、詳細な時期は不明である。

#### SK028 (第 15 図 第 5 表)

**位 置** E-3 グリッドに位置する。北側 1/2 ほどを試掘坑に壊される。SK022 より古い。

**形状・規模** 平面形状は円形と推定され、断面形状は弧状である。長軸（東—西）1.61m、深さ 0.19m を測る。

**覆 土** 黒褐色土を主体とするが、上層には As-A をわずかに含む褐灰色土が堆積する。

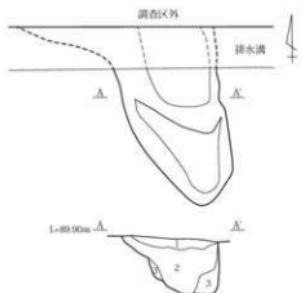
**遺 物** 土師器と陶器の破片がわずかに出土したが、図示できるものはなかった。

**時 期** 形状や出土遺物から、近世と考えられる。

#### SK029 (第 16 図 第 5 表)

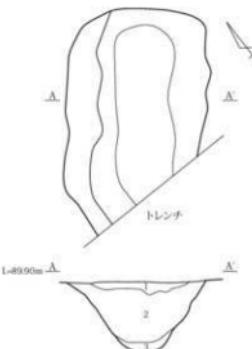
**位 置** D-2・E-2 グリッドに位置する。SK011・SE001 より古い。

**形状・規模** 平面形状、断面形状ともに不整形である。長軸（北—南）2.66m、短軸（東—西）1.39m、深



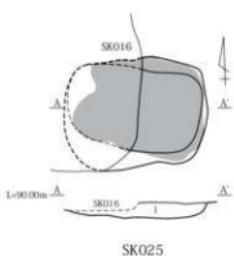
SK023

1. 黒褐色土 (10YR5/1) ロームブロック少量。焼土ブロック微量。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) ローム粒少量。
3. 黒褐色土 (10YR4/3) ロームブロック多量。



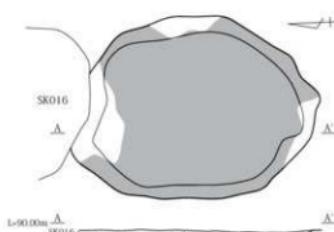
SK024

1. 黒褐色土 (7.5YR3/1) しまり弱。ロームブロック・焼土粒少量。
2. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘弱強。ロームブロック少量。
3. にじい黒褐色土 (10YR4/3) 粘性強。ロームブロック多量。



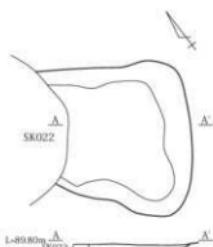
SK025

1. 黒褐色土 (10YR3/2) ロームブロック少量。小礫微量。  
底面に薄く灰が堆積。



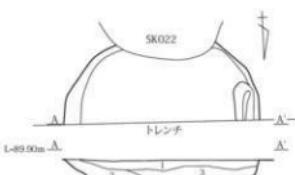
SK026

1. 黒褐色土 (10YR3/2) ロームブロック少量。小礫微量。  
底面に薄く灰が堆積。



SK027

1. 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック多量。炭化物少量。

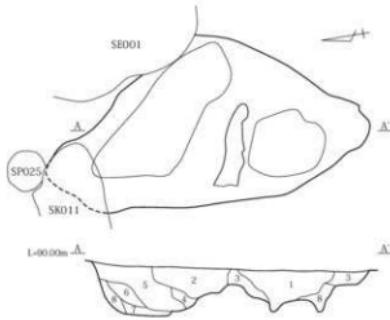


SK028

1. 褐灰褐色土 (10YR4/1) ローム粒子・ロームブロック少量。As-A屢見。
2. 黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒子・ロームブロック少量。
3. 褐灰褐色土 (10YR4/1) ローム粒子・ロームブロックやや多量。

0 1:40 1m

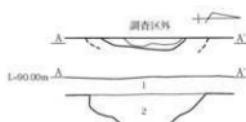
第15図 SK023～028



SK029

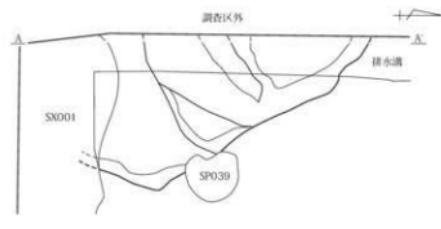
## SK030・SK001

1. 表土
2. 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック少量。As-A少量。SX001覆土。
3. 黒褐色土 (10YR3/1) ロームブロック少量。As-A少量。SX001覆土。
4. 黑褐色土 (10YR3/1) ロームブロック・As-A・他土ブロック・炭化物少量。SK030覆土。
5. 灰黒褐色土 (10YR4/2) ロームブロック少量。SK030覆土。
6. 黑褐色土 (10YR3/2) じまり層。黒色土ブロック多量。SK030覆土。
7. 黑褐色土 (10YR2/2) 黏性強。しまり弱。ロームブロック少量。SK030覆土。
8. にふい黄褐色土 (10YR4/3) 黏性強。しまり弱。ロームブロック少量。SK030覆土。



SK031

- SK031
1. 表土
  2. 黒褐色土 (10YR3/1) ローム粒・他土ブロック少量。



SK030

0 1:40 1m

第16図 SK029～031

さ 0.40m を測る。

- 覆 土 ロームブロックを多量に含む暗褐色土を主体とする。
- 遺 物 土器と繩文土器の破片が出土したが、図示できるものはなかった。
- 時 期 覆土の堆積が他の遺構に比べて乱れており、遺物からも時期を断定することはできなかった。  
倒木痕の可能性もある。

## SK030 (第16図 第5表)

位 置 D-2・E-2 グリッドに位置する。南西側が調査区外となる。SP039・SX001 より古い。

形狀・規模 平面形状は不整形、断面形状は南側がテラス状となる台形である。残存する長軸（北西—南東）2.83m、深さ 0.86m を測る。

覆 土 黒褐色土を主体とする。テラス状になった箇所には As-A を含む暗褐色土が堆積する。  
 遺 物 土師器の壺、S字甕の破片が少量出土しているが、図示できるものはなかった。  
 時 期 重複関係から、古墳時代後期と考えられる。

#### SK031 (第 16 図 第 5 表)

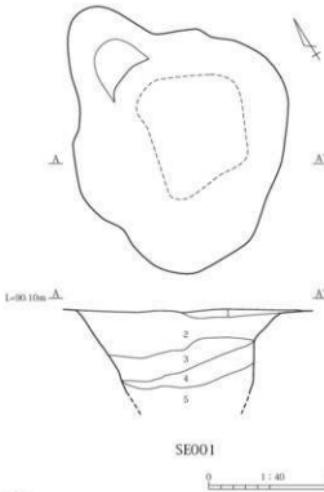
位 置 E-1 グリッドに位置する。東壁の一部のみ検出され、大部分は調査区外となる。SI001 より新しい。  
 形状・規模 平面形状は不明、断面形状は U 字状である。長軸 0.67m、深さ 0.29m を測る。  
 覆 土 焼土ブロックを少量含む黒褐色土を主体とする。  
 遺 物 遺物は出土しなかった。  
 時 期 重複関係から、古墳時代後期以降と推定される。

### 第 3 節 井戸

井戸は 5 基検出され、いずれも素掘りであった。SE001 ~ 003 については、標高 89m 付近で湧水が著しくなり、完掘を断念した。

#### SE001 (第 17 図 第 6 表 PL.3)

位 置 E-2 グリッドに位置する。SK029 より新しい。  
 形状・規模 平面形状は楕円形である。長軸（北東—南西）2.33m、短軸（北西—南東）1.89m を測り、深さ 0.83m まで掘削した。  
 覆 土 黒褐色土を主体とする。  
 遺 物 土師器の壺、甕の破片が少量出土しているが、図示できるものはなかった。  
 時 期 覆土の特徴と出土遺物から、古墳時代後期と考えられる。



#### SE002 (第 18 図 第 6・12 表 PL.4・5)

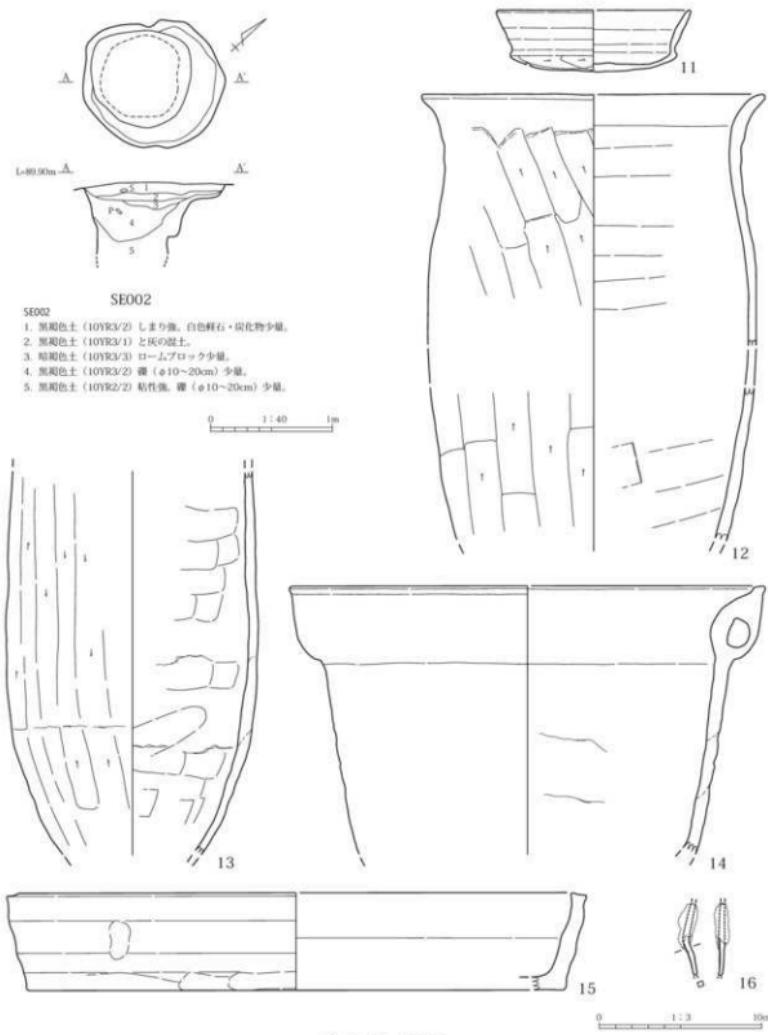
位 置 E-3 グリッドに位置する。SE003 より新しい。  
 形状・規模 平面形状は円形である。長軸（東—西）1.18m、短軸（北—南）1.08m を測り、深さ 0.68m まで掘削した。  
 覆 土 粘性の強い黒褐色土を主体とする。  
 遺 物 上層からは古墳時代後期の土師器が、中～下層からは近世以降の炻器、磁器の破片、金属製品が出土した。このうち、土師器の壺 1 点 (11)、甕 2 点 (12・13)、軟質陶器の内耳鍋 1 点 (14) と焰烙 1 点 (15)、

1. 黒褐色土 (10YR3/3) 粘性強、しまり強、ロームブロック・炭化物少量。  
 2. 黒褐色土 (10YR3/2) 砂質、As-A'付。  
 3. 黒褐色土 (10YR3/2) ロームブロック少量。  
 4. 黒褐色土 (10YR3/2) ロームブロック・炭化物少量。  
 5. 黑灰色土 (10YR4/1) ロームブロック多量。

第 17 図 SE001

鉄釘 1 点 (16) を図示した。11 ~ 13 は、6 世紀末~7 世紀初頭に、14・15 は 16 世紀代と考えられる。

時 期 出土遺物と重複関係から近世の井戸と考えられ、11～13の土師器は埋没時に混入したと考えられる。



第18図 SEO02

SE003 (第19図 第6・12表 PL5)

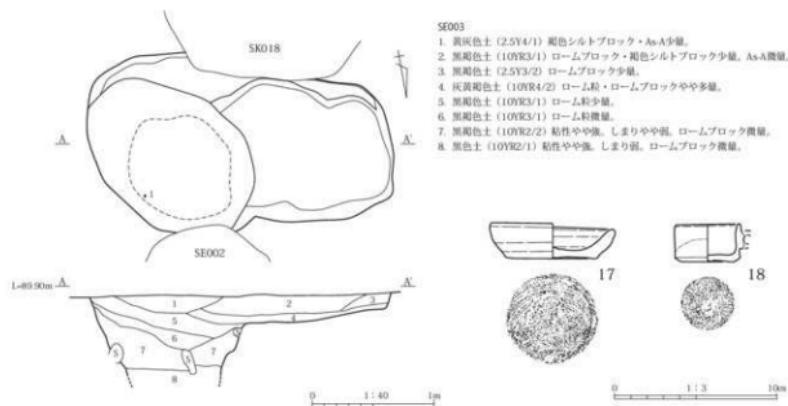
位 置 D-3・E-3 グリッドに位置する。SK018・SE002 より古く、SD005 より新しい。

形状・規模 平面形状は楕円形だが、西側が  $1.20 \times 1.10\text{m}$  の範囲でテラス状に掘り込まれており、深さ  $0.23\text{m}$  を測る。本体は長軸(北西—南東)  $1.63\text{m}$ 、短軸(北東—南西)  $1.06\text{m}$  を測り、深さ  $0.75\text{m}$  まで掘削した。

覆 土 黒褐色土を主体とする。

遺 物 主に近世陶器の破片が出土しており、覆土上層に土師器の破片も少量混入していた。完形のかわらけ1点(17)と、倒猪口1点(18)を図示した。

時 期 出土遺物から、江戸時代後期と考えられる。



第19図 SE003

SE004 (第20図 第6表)

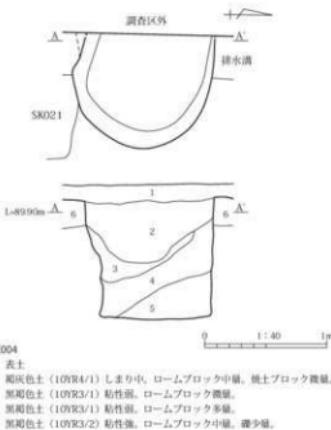
位 置 E-2 グリッドに位置する。西側  $1/3$  ほどが調査区外となる。SK021 より新しい。

形状・規模 平面形状は推定楕円形である。短軸(北—南)  $1.08\text{m}$ 、深さ  $0.98\text{m}$  を測る。

覆 土 黒褐色土を主体とする。

遺 物 遺物は出土しなかった。

時 期 形状から古墳時代の可能性があるが、断定はできなかった。



第20図 SE004

SE005 (第21図 第6・12表 PL3・5)

位 置 E-2 グリッドに位置する。SI002・SK016・025より古い。

形状・規模 平面形状は円形である。長軸(東一西) 0.84m、短軸(北一南) 0.80m、深さ 0.73m を測る。

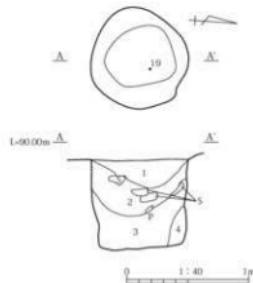
覆 土 墓化物と焼土粒を少量含む黒褐色土を主体とする。

遺 物 土師器の完形の壺1点(19)が出土し、これを図示した。この他、少量の土師器の破片が出土した。

時 期 出土遺物から、6世紀末～7世紀初頭と考えられる。



19



SE005

1. 黒褐色土 (10YR3/2) ロームブロック少量。燒土粒微量。炭化物少量。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) ロームブロック少量。壺 (ø 10~25cm)。
3. 黑褐色土 (10YR2/2) 黏性強。ロームブロック少量。
4. 黑褐色土 (10YR2/2) 黏性強。ロームブロック多量。

第21図 SE005

#### 第4節 溝

溝は5条検出された。5条のうち、3条は小規模な溝であったが、調査区東端で検出されたSD002・003は幅3mを超える大規模なものであった。出土遺物や覆土の特徴を観察したところ、古墳時代から江戸時代後期にかけて、ほぼ同一地点に溝が掘られていたことが確認された。両溝が掘削された場所は微高地と低地の境界にあたり、集落などの地境や用水路であった可能性がある。

SD001 (第22図 第7表)

位 置 E-1 グリッドに位置する。北側は調査区外へと延びる。

形状・規模 南北に走行し、底面標高は南側で 89.87m、北側で 89.86m とほぼ平坦である。断面形状は弧状である。検出長 0.68m、幅 0.30m、深さ 0.10m を測る。

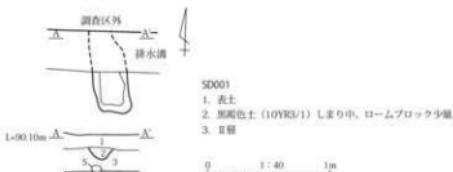
覆 土 黒褐色土を主体とする。

遺 物 遺物は出土しなかった。

時 期 不明。

SD002 (第23・25～28図 第7・12・13表 PL3・5・6)

位 置 B-3～F-4 グリッドにかけて、調査区を南北に縦断する。SD003より新しい。



第22図 SD001

**形状・規模** 南北に走行し、調査区東端のトレンチ南北端においても溝の一部が検出された。北端では北西へ、南端では南東へと緩やかに屈曲しながら延びていることが確認された。底面付近は湧水が著しいため、調査区北壁際にトレンチを掘削し、部分的な検出に留めた。断面形状は緩やかなV字状である。検出長はトレンチ部分を含めて43.0m、深さ0.82mを測る。幅は、東側が調査区外となるため不明である。

**覆土** 土 最上層にはAs-Aが広範囲にわたって堆積する。下層は小礫を多量に含む、砂質の強い黒褐色土を主体とする。

**遺物** 江戸時代後期以降の土器、陶器、炻器、磁器、瓦などの破片が多量に出土し、少量ではあるが金属製品、石製品も含まれる。近世の遺物以外にも、縄文時代の石器、古墳時代の土師器、古代の可能性がある瓦が混入していた。このうち、土器1点(26)、陶器7点(20~22・25・28~30)、炻器1点(27)、磁器2点(23・24)、石製品2点(32・33)、金属製品1点(34)の14点を溝に伴う遺物として、古代の瓦1点(31)、縄文時代の石器3点(35~37)を混入品として図示した。20は仏飯器である。21は皿で、底部高台に煤・油が付着していることから、灯明皿に転用されたと考えられる。22は瀬戸美濃系の菊割皿、23・24は肥前産の絵付け皿と碗で、いずれも18世紀頃に位置付けられる。25は瀬戸美濃系の塊である。26は用途不明の土師質土器で体へ口縁部の破片で、体部は円筒状、外面に縱方向のミガキを施す。全体に被熱の痕跡がみられる。27は匣鉢と思われ、窯道具の一種である。28は焙烙、29・30は常滑産の搖鉢である。31は古代の丸瓦と思われる破片で、凸面にはナデが施され凹面には布目痕が残る。32は石臼の破片、33は砥石、34は形状から包丁と思われる。35は縄文時代の打製石斧、36・37は扁平棒状石器である。

**時期** 覆土の特徴と出土遺物、重複関係から、江戸時代後期以前に掘削され、As-A降下によって最終的に埋没したと考えられる。

#### SD003 (第24・25・28図 第7・13表 PL3・6)

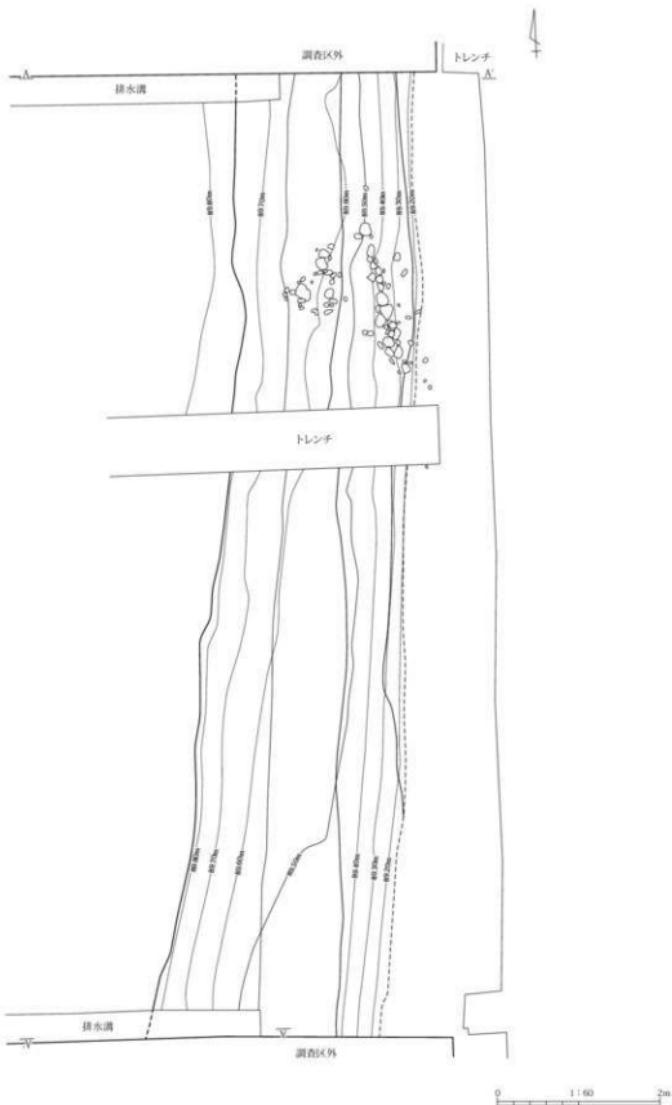
**位置** D-3・D-4・E-3・E-4 グリッドに位置する。南北両端は調査区外へと延びる。SD002・SP078・079より古い。

**形状・規模** 南北に走行し、溝の中央～東縁はSD002と重複するため失われている。底面付近は湧水が著しいため、調査区北壁際にトレンチを掘削し、部分的な検出に留めた。断面形状は緩やかなV字状である。検出長11.84m、残存する幅3.64m、深さ0.94mを測る。

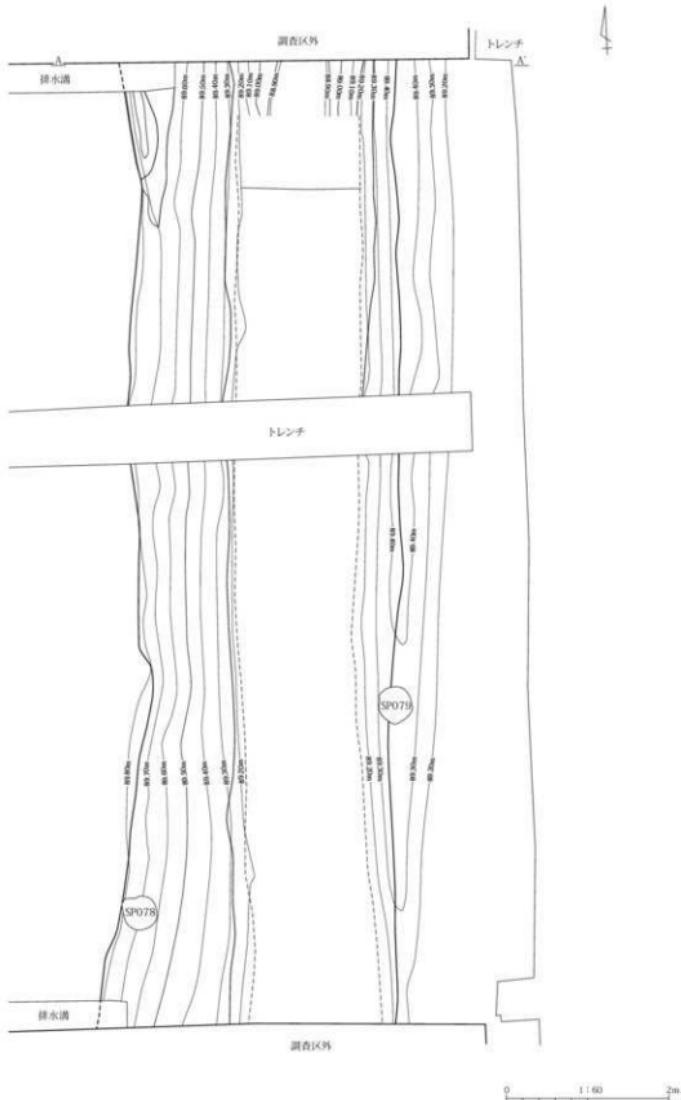
**覆土** 磚や焼土粒を少量含む黒褐色土、粘性の強い灰黄褐色土、粘性が弱い灰黄褐色砂質土の順に堆積する。

**遺物** 黒褐色土が堆積する覆土上層からは近世の土器、陶器が、灰黄褐色土が堆積する下層からは古墳時代後期の須恵器、土師器、石製品が出土した。このうち、上層からの遺物として素焼きの鍋1点(42)、下層からの遺物として須恵器の塊1点(38)、土師器の壺1点(39)、S字甕1点(40)、甕1点(41)、砥石1点(43)を図示した。

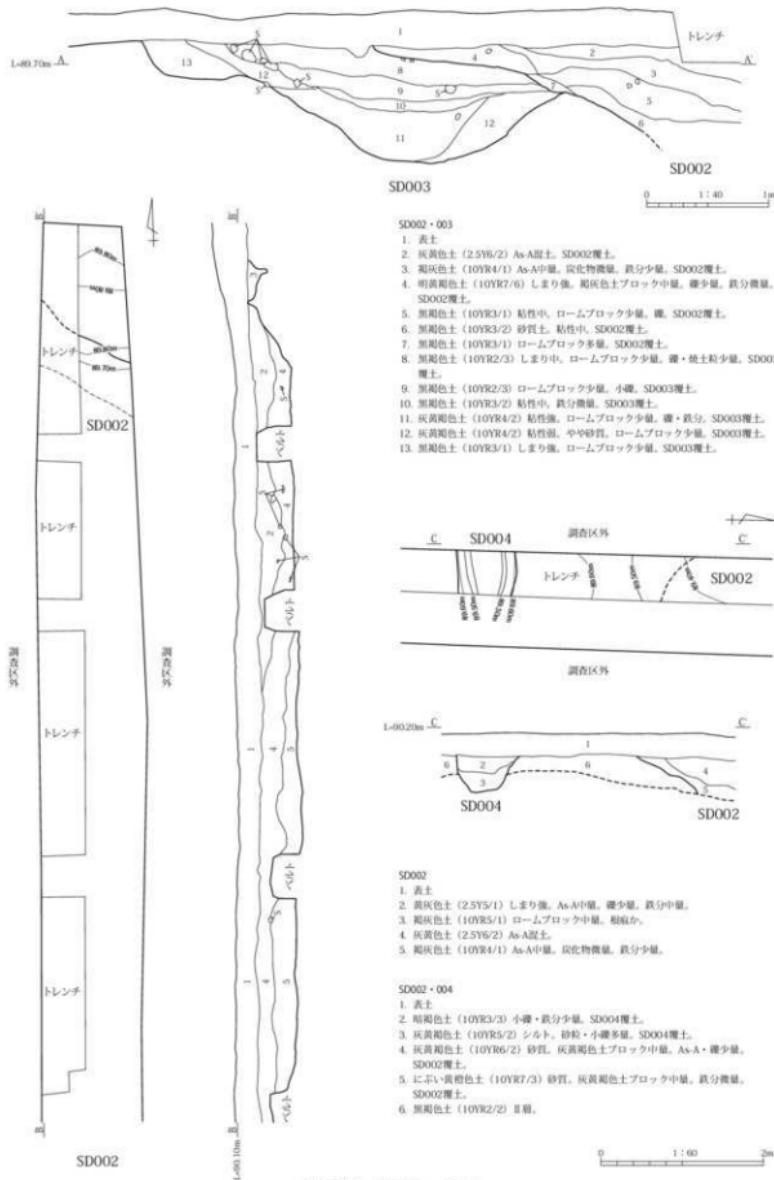
**時期** 覆土の特徴と出土遺物、重複関係から、古墳時代後期に掘削されたと考えられる。古墳時代後期の遺物は6世紀末～7世紀初頭に属する。いったん埋没した後、近世に再び溝として掘削された可能性もあるが、上層から出土した遺物はSD002が埋没する過程で流入した可能性が高いと考えられる。



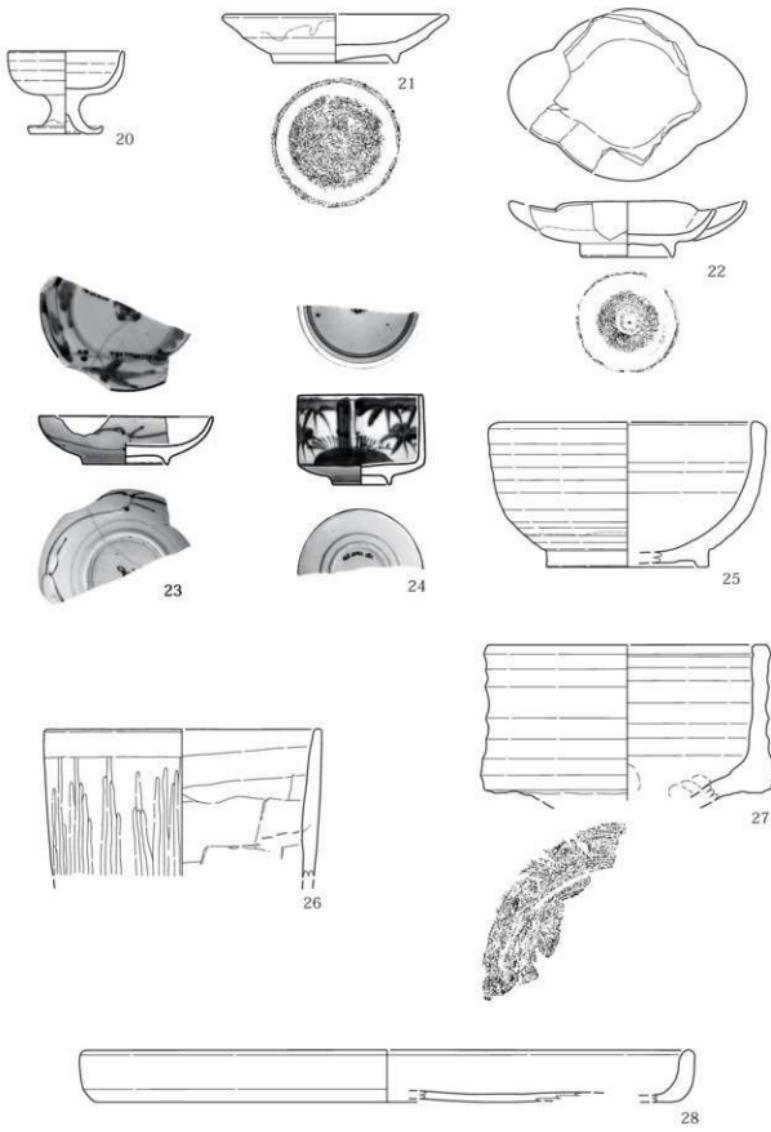
第23図 SD002



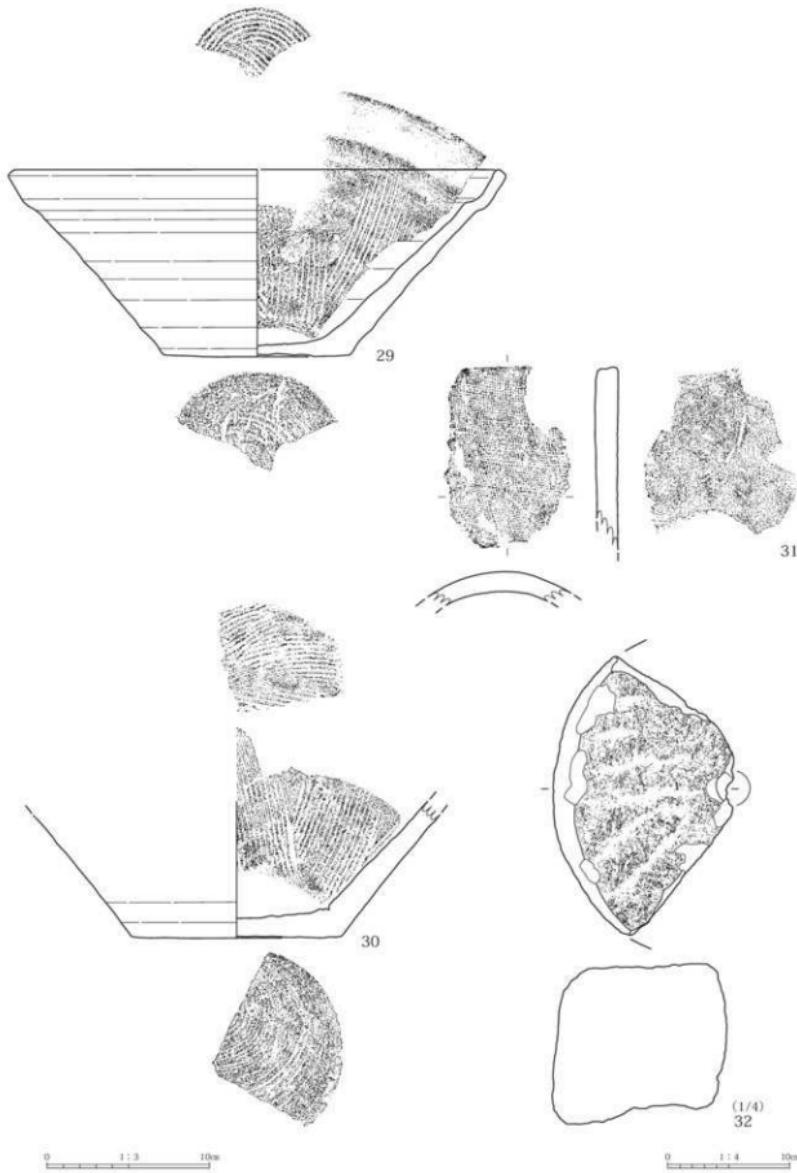
第24図 SD003



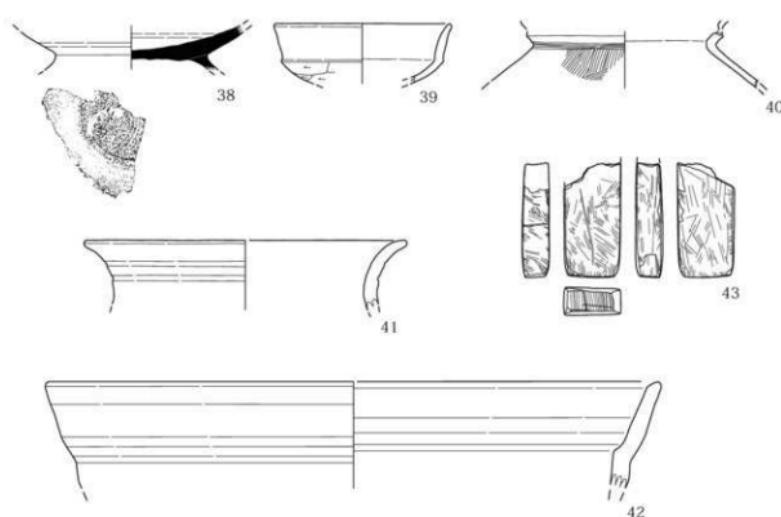
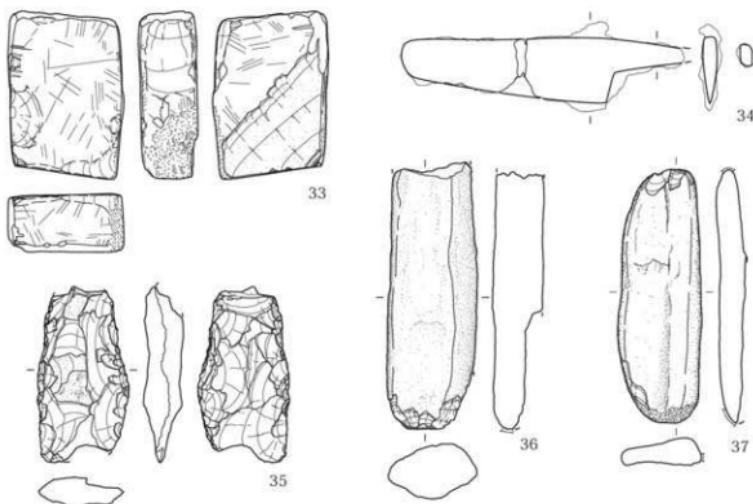
第25図 SD002～004



第26図 SD002出土遺物(1)



第27図 SD002出土遺物(2)



第28図 SD002・003出土遺物

SD004 (第 25 図 第 7 表)

位 置 B-3・B-4 グリッドに位置する。調査区東端のトレンチ部分にあたり、東西両端は調査区外となる。

形状・規模 東西に走行する。断面形状は U 字状で、検出長 0.45m、幅 0.73m、深さ 0.44m を測る。

覆 土 暗褐色土と灰黄褐色シルトを主体とする。

遺 物 遺物は出土しなかった。

時 期 不明。

SD005 (第 29 図 第 7・13 表 PL.6)

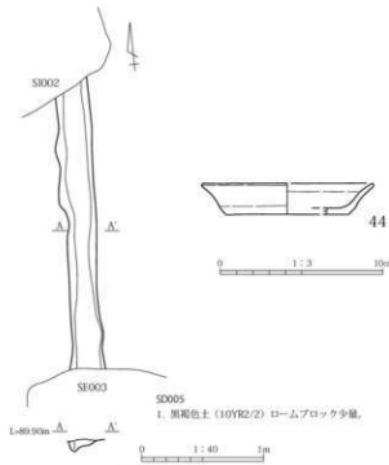
位 置 E-3 グリッドに位置する。SI002・  
SE003 より古い。

形状・規模 南北に走行し、底面標高は北側で  
89.80m、南側で 89.75m を測り、  
わずかに北から南へと傾斜する。  
断面形状は弧状で、検出長 2.80m、  
幅 0.30m、深さ 0.08m を測る。

覆 土 黒褐色土を主体とする。

遺 物 土師器の壺 1 点 (44) が出土し、  
これを図示した。

時 期 出土遺物と重複関係から、6 世紀  
末～7 世紀前半と考えられる。



第 29 図 SD005

## 第 5 節 性格不明遺構

SX001 (第 30 図 第 8 表)

位 置 D-2 グリッドに位置する。南側・西側の大半が調査区外となる。SK030・SP076・077 より新しい。

形状・規模 平面形状は不整形、断面形状は不整形である。深さ 0.16m を測る。

覆 土 As-A を含む黒褐色土を主体とする。

遺 物 遺物は出土しなかった。

時 期 覆土の特徴から、As-A 降下前に掘削されたと考えられ、江戸時代後期以前と推定される。

SX002 (第 30 図 第 8・13 表 PL.6)

位 置 E-2・E-3 グリッドに位置する。北側は調査区外となる。

形状・規模 平面形状は不整形、断面形状は不整形である。長軸 3.90m、深さ 0.18m を測る。

覆 土 黒褐色土を主体とする。

遺 物 少量の土師器が出土し、壺 1 点 (45) を図示した。

時 期 出土遺物から、古墳時代後期と考えられる。

SX003 (第31図 第8・14表 PL.6)

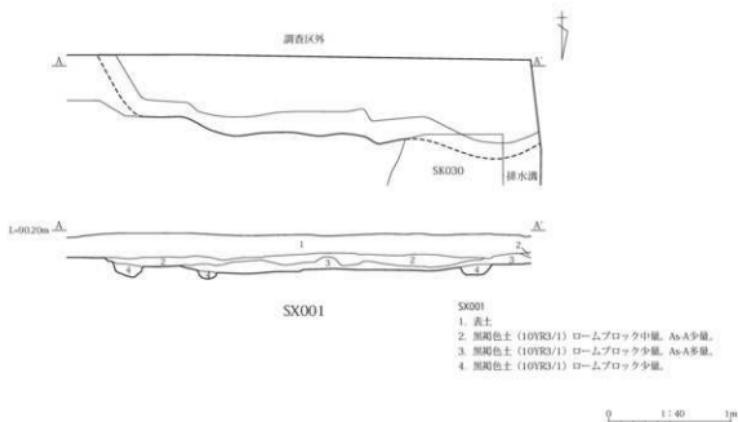
位 置 E-2 グリッドに位置する。西側の一部が調査区外となる。SPO69より古い。

形状・規模 平面形状は楕円形、断面形状は弧状である。長軸 2.70m、短軸 1.70m、深さ 0.20m を測る。

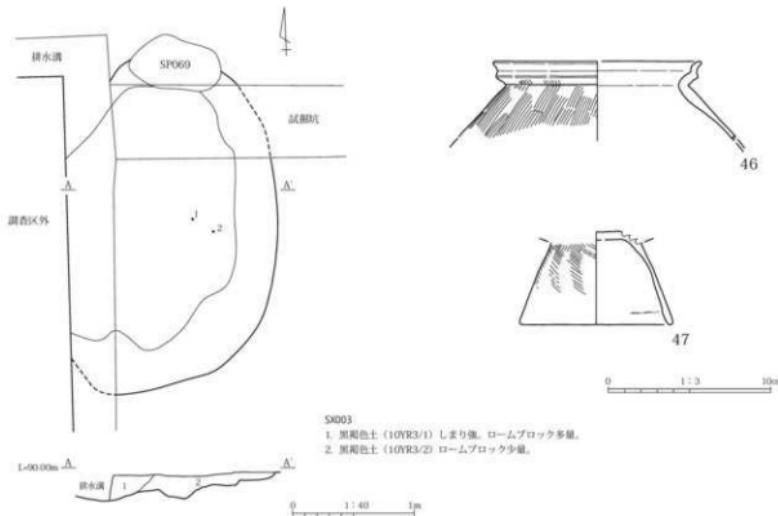
覆 土 黒褐色土を主体とする。

遺 物 少量の土師器が出土し、S字窓 2点 (46・47) を図示した。

時 期 古墳時代前期と後期の遺物が出土しており、詳細な時期については断定できなかった。



第30図 SX001・002



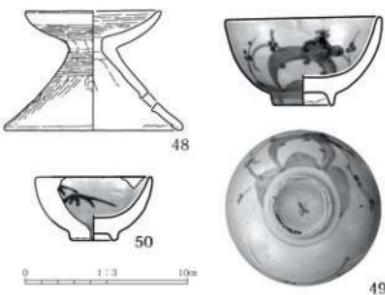
第31図 SX003

## 第6節 ピット

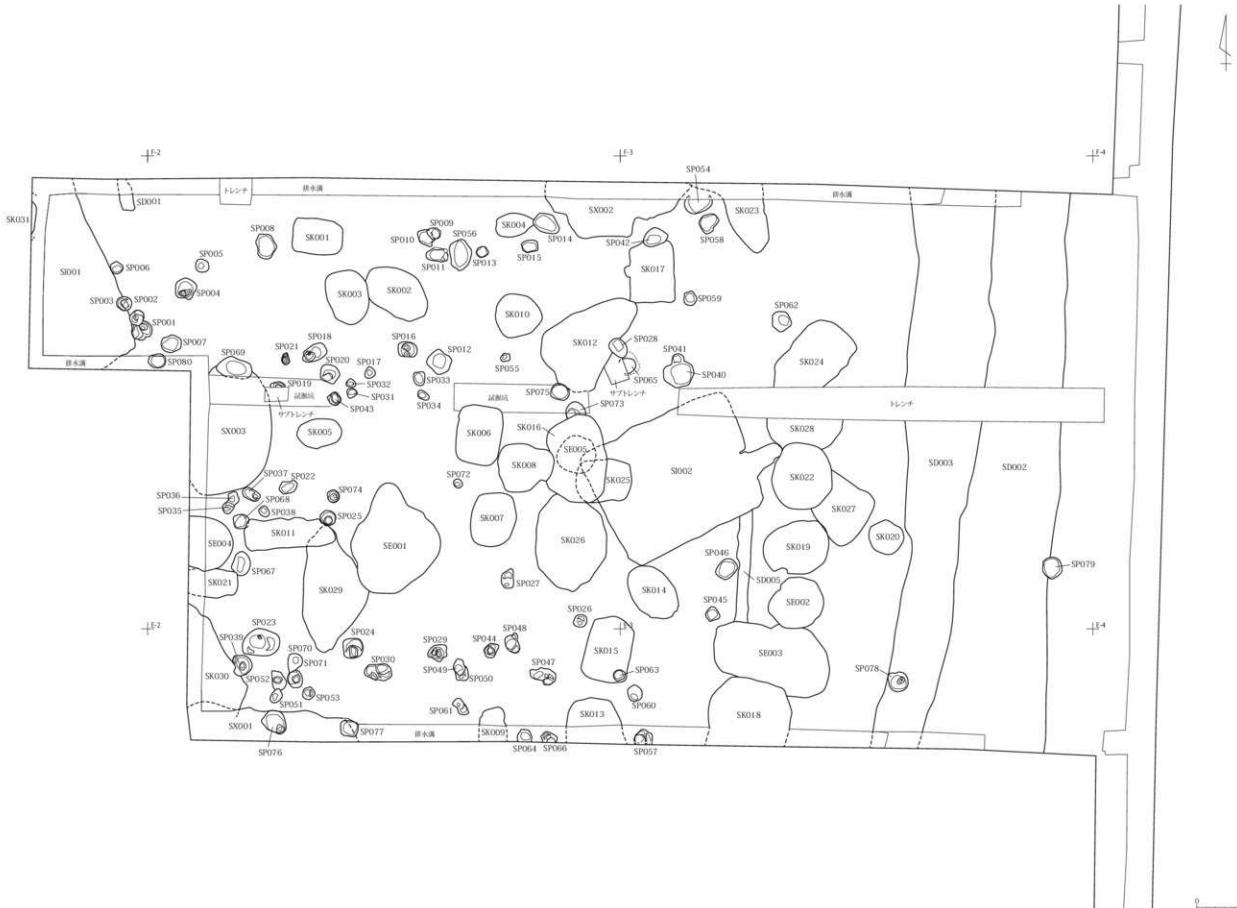
ピットは80基が検出された（第33図）。柱穴と断定できるものは少数であり、小規模なものが大半を占める。遺物は土師器や陶器などの小片が出土したのみで、図示できるものはなかった。覆土は黒褐色土と褐灰色土、灰黄褐色土を主体とする。時期については、出土遺物や重複関係から、黒褐色土を覆土とするものが古墳時代後期、褐灰色土・灰黄褐色土を覆土とするものが近世と考えられる。時期や規模、配置などを検証したが、掘立柱建物跡や柵列などは確認されなかった。個別の形状・規模については第9・10表に掲載している。

## 第7節 遺構外出土遺物

表土や試掘坑跡、遺構確認時に出土したもののうち、3点を遺構外出土遺物として掲載する。土師器の器台1点（48）、磁器碗2点（49・50）を図示した（第32図 第14表 PL.6）。



第32図 遺構外出土遺物



第33図 ピット全体図



第4表 穴住跡観察表

№	グリッド	平面形状	規模 (m)			底面標高 (m)	主軸方向	掘藏遺物	備考
			長軸	短軸	深さ				
001	E-1	方形	(4.10)	(2.35)	0.35 ~ 0.55	89.90	N-65° E	1 ~ 3	
002	E-2・3	長方形	3.40	2.20	0.05 ~ 0.09	89.80	N-63° E	4 ~ 8	

第5表 土坑観察表

№	グリッド	平面形状	断面形状	規模 (m)			底面標高 (m)	長軸方向	掘藏遺物	備考
				長軸	短軸	深さ				
001	E-2	長方形	弧状	1.05	0.75	0.22	89.8	N-86° W	—	
002	E-2	楕円形	弧状	1.50	0.92	0.11	89.8	N-53° W	—	
003	E-2	楕円形	弧状	1.15	0.87	0.23	89.7	N-14° W	—	
004	E-2	楕円形	弧状	0.78	0.50	0.08	89.8	N-81° W	—	
005	E-2	楕円形	弧状	0.95	0.59	0.12	89.8	N-85° E	—	
006	E-2	長方形	弧状	1.24	0.94	0.16	89.7	N-9° E	—	
007	E-2	長方形	弧状	1.13	0.95	0.07	89.8	N-7° E	—	
008	E-2	楕円形	弧状	1.20	1.03	0.09	89.8	N-86° W	—	
009	D-2	長方形	弧状	—	1.03	0.09	89.8	N-5° W	—	
010	E-2	円形	U字状	0.95	0.93	0.52	89.4	N-28° W	—	
011	E-2	長方形	弧状	1.90	0.62	0.14	89.8	N-87° E	—	
012	E-2・3	不整形	側斜状	2.23	1.53	0.63	89.2	N-49° E	—	
013	D-2・3	楕円形	箱形	—	1.17	0.22	89.7	N-5° W	—	
014	E-3	楕円形	弧状	1.25	0.87	0.30	89.6	N-33° W	—	
015	D-2・3 E-2・3	長方形	弧状	1.40	0.95	0.13	89.8	N-14° E	—	
016	E-2	楕円形	弧状	1.83	1.19	0.13	89.8	N-9° E	—	
017	E-3	長方形	箱形	(1.30)	1.04	0.23	89.6	N-1° W	9	
018	D-3	円形	不整形	1.76	—	0.45	89.3	N-74° W	10	
019	E-3	楕円形	弧状	1.42	1.12	0.17	89.7	N-62° E	—	
020	E-3	円形	U字状	0.73	0.72	0.42	89.4	N-21° W	—	
021	E-2	長方形	箱形	—	0.61	0.13	89.8	N-87° W	—	
022	E-3	楕円形	皿状	1.40	1.25	0.35	89.6	N-18° E	—	
023	E-3	楕円形	台形	—	1.04	0.45	89.3	N-14° W	—	
024	E-3	長方形	U字状	1.78	0.90	0.56	89.2	N-45° E	—	
025	E-2・3	長方形	弧状	(1.10)	0.83	0.13	89.8	N-78° W	—	
026	E-2	楕円形	弧状	1.75	1.48	0.07	89.8	N-12° W	—	
027	E-3	長方形	弧状	—	1.25	0.07	89.7	N-52° W	—	
028	E-3	円形	弧状	1.61	—	0.19	89.6	N-88° W	—	
029	D-2, E-2	不整形	不整形	2.66	1.39	0.40	89.3	N-3° E	—	
030	D-2, E-2	不整形	台形	—	—	0.86	89.7	N-17° W	—	
031	E-1	—	U字状	0.67	—	0.29	89.7	—	—	

第6表 井戸観察表

№	グリッド	平面形状	規模 (m)			底面標高 (m)	周囲遺物	備考
			長軸	短軸	深さ			
001	E-2	楕円形	2.33	1.89	(0.83)	—	—	
002	E-3	円形	1.18	1.08	(0.68)	—	11 ~ 16	
003	D-3, E-3	楕円形	1.63	1.06	(0.75)	—	17 ~ 18	
004	E-2	楕円形	—	1.08	0.98	89.96	—	
005	E-2	円形	0.84	0.80	0.73	89.89	19	

第7表 溝観察表

№	グリッド	断面形状	走行方向	規模 (m)			底面標高 (m)	周囲遺物	備考
				被出長	幅	深さ			
001	E-1	弧状	北-南	0.68	0.30	0.10	89.87	—	
002	B-3・4, C-3・4, D-3・4, F-4	V字状	北-南	43.0	—	0.82	—	20 ~ 37	
003	E-3・4	V字状	北-南	11.84	(3.64)	0.94	—	38 ~ 43	
004	B-3・4	U字状	西-東	0.45	0.73	0.44	89.39	—	
005	E-3	弧状	北-南	2.80	0.30	0.80	89.80	44	

第8表 性格不明遺構観察表

№	グリッド	平面形状	断面形状	規模 (m)			底面標高 (m)	周囲諸物	備考
				長軸	短軸	深さ			
001	D-2	不整形	不整形	(3.50)	—	0.16	89.86	—	
002	E-2+3	不整形	不整形	(3.90)	—	0.18	90.07	45	
003	E-2	梢円形	弧状	2.70	(1.70)	0.20	89.76	46+47	

第9表 ピット観察表(1)

№	グリッド	平面形状	断面形状	規模 (m)			底面標高 (m)	柱類	備考
				長軸	短軸	深さ			
001	E-1+2	不定形	漏斗状	0.41	0.40	0.20	89.91	—	
002	E-1	円形	U字状	0.33	0.29	0.22	89.91	—	
003	E-1	円形	U字状	0.32	0.30	0.20	89.87	—	
004	E-2	方形	皿状	0.43	0.42	0.10	89.89	—	
005	E-2	円形	U字状	0.29	0.28	0.19	89.77	—	
006	E-1	円形	皿状	0.26	0.26	0.06	89.92	—	
007	E-2	梢円形	皿状	0.42	0.36	0.18	89.80	—	
008	E-2	梢円形	皿状	0.53	0.40	0.12	89.85	—	
009	E-2	方形	U字状	0.30	0.26	0.19	89.76	—	
010	E-2	不定形	U字状	0.41	0.30	0.13	89.82	—	
011	E-2	梢円形	箱状	0.46	0.29	0.14	89.84	—	
012	E-2	方形	箱状	0.50	0.41	0.22	89.74	—	
013	E-2	円形	漏斗状	0.26	0.23	0.18	89.84	—	
014	E-2	梢円形	皿状	0.56	0.41	0.10	89.83	—	
015	E-2	方形	漏斗状	0.33	0.25	0.07	89.85	—	
016	E-2	方形	箱状	0.40	0.31	0.30	89.62	—	
017	E-2	円形	V字状	0.23	0.21	0.11	89.79	—	
018	E-2	梢円形	漏斗状	0.54	0.33	0.36	89.76	—	
019	E-2	(円形)	U字状	0.31	0.12	0.64	89.27	—	
020	E-2	方形	U字状	0.44	0.40	0.44	89.66	—	
021	E-2	梢円形	U字状	0.25	0.16	0.13	89.84	—	
022	E-2	不定形	皿状	0.56	0.24	0.12	89.84	—	
023	D-2	梢円形	皿状	0.78	0.57	0.34	89.82	—	
024	D-2	方形	箱状	0.42	0.41	0.36	89.70	—	
025	E-2	円形	漏斗状	0.33	0.33	0.42	89.80	—	
026	E-2	円形	箱状	0.27	0.26	0.22	89.75	—	
027	E-2	梢円形	漏斗状	0.42	0.26	0.68	89.87	—	
028	E-2+3	梢円形	U字状	0.44	0.32	0.68	89.24	—	
029	D-2	不定形	V字状	0.37	0.33	0.25	89.69	—	
030	D-2	梢円形	U字状	0.57	0.32	0.30	89.69	—	
031	E-2	方形	U字状	0.24	0.21	0.16	89.80	—	
032	E-2	梢円形	U字状	0.23	0.15	0.34	89.59	—	
033	E-2	方形	U字状	0.29	0.24	0.22	89.72	—	
034	E-2	梢円形	V字状	0.26	0.17	0.18	89.79	—	
035	E-2	(円形)	V字状	0.26	0.25	0.05	89.88	—	
036	E-2	(円形)	V字状	0.25	0.21	0.12	89.84	—	
037	E-2	梢円形	漏斗状	0.38	0.22	0.26	89.85	—	
038	E-2	円形	箱状	0.23	0.19	0.30	89.66	—	
039	D-2	不定形	U字状	0.42	0.35	0.28	89.66	—	
040	E-3	方形	箱状	0.60	0.59	0.23	89.71	—	
041	E-3	(円形)	U字状	—	0.25	0.20	89.73	—	
042	E-3	梢円形	箱状	0.53	0.38	0.22	89.60	—	
043	E-2	方形	箱状	0.27	0.25	0.29	89.65	—	
044	D-2	方形	漏斗状	0.32	0.25	0.32	89.62	壁面	
045	E-3	方形	箱状	0.27	0.27	0.10	89.76	—	
046	E-3	円形	漏斗状	0.45	0.36	0.22	89.71	—	
047	D-2	不定形	V字状	0.56	0.27	0.25	89.81	—	
048	D-2	不定形	漏斗状	0.30	0.27	0.30	89.85	—	
049	D-2	梢円形	皿状	0.35	0.27	0.14	89.83	—	
050	D-2	(方形)	漏斗状	—	0.26	0.22	89.73	—	

第10表 ピット観察表(2)

№	グリッド	平面形状	断面形状	幅標(m)			底面標高 (m)	柱数	備考
				長軸	短軸	深さ			
051	D-2	梢円形	V字状	0.31	0.21	0.13	89.77	—	
052	D-2	不定形	V字状	0.45	0.20	0.14	89.70	—	
053	D-2	円形	皿状	0.26	0.25	0.11	89.81	—	
054	E-3	(梢円形)	皿状	—	0.66	0.14	89.76	—	
055	E-2	不定形	U字状	0.21	0.18	0.20	89.72	—	
056	E-2	梢円形	皿状	0.66	0.44	0.12	89.83	—	
057	D-3	(不定形)	漏斗状	—	0.38	0.55	89.67	壁面	
058	E-3	不定形	皿状	0.41	0.33	0.16	89.73	—	
059	E-3	円形	V字状	0.30	0.27	0.29	89.70	—	
060	D-3	方形	皿状	0.34	0.30	0.18	89.76	—	
061	D-2	不定形	漏斗状	0.29	0.19	0.31	89.83	—	
062	E-3	円形	皿状	0.43	0.39	0.16	89.66	—	
063	D-2+3	方形	V字状	0.26	0.21	0.18	89.71	—	
064	D-2	(不定形)	漏斗状	—	0.31	0.25	89.51	—	
065	E-3	(円形)	皿状	—	0.50	0.84	89.60	—	
066	D-2	(不定形)	漏斗状	—	0.35	0.40	89.65	—	
067	E-2	梢円形	皿状	0.51	0.37	0.25	89.64	—	
068	E-2	方形	U字状	0.36	0.33	0.43	89.57	—	
069	E-2	梢円形	皿状	0.75	0.40	0.34	89.61	—	
070	D-2	梢円形	皿状	0.42	0.31	0.11	89.66	—	
071	D-2	円形	V字状	0.36	0.31	0.45	89.56	断面・底面	
072	E-2	円形	U字状	0.19	0.19	0.28	89.65	—	
073	E-2	円形	皿状	0.45	0.41	0.52	89.34	—	
074	E-2	円形	漏斗状	0.26	0.25	0.55	89.39	断面	
075	E-2	方形	皿状	0.39	0.34	0.36	89.45	—	
076	D-2	方形	漏斗状	0.53	0.44	0.34	89.76	—	
077	D-2	方形	漏斗状	0.37	0.32	0.30	89.53	—	
078	D-3	円形	漏斗状	0.46	0.43	0.37	89.38	底面	
079	E-3	方形	U字状	0.45	0.41	0.33	89.45	—	
080	E-2	円形	皿状	0.37	0.35	0.20	89.95	—	

第11表 出土遺物観察表(1)

## 堅穴住居跡(SH001)

№	種別 器種	出土 位置	計測 値 cm(g) 或 存 色調(外側・内側)／板或	胎土	特徴・調整・文様等
1	土師器 甕	覆土	口：— 高：(5.5) 底：— 最大径：— 体部破片 褐色／良好	石英、長石、結晶 片岩、褐色。小 鑿	石英、長石、結晶 片岩、褐色。小 鑿 外：ヘラ削り。 内：ヘラナデ
2	土師器 环	覆土	口：(11.3) 高：(4.8) 底：— 最大径：— 口縁一部破片 褐色／良好	長石、褐色粘	長石、褐色粘 外：口縁部ヨコナデ。体部ヘラ削り。 内：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。
3	土師器 环	脚の方 覆土	口：(12.8) 高：4.4 底：— 最大径：— 口縁一部破片 褐色／良好	石英、チャート、 白色粘	石英、チャート、 白色粘 外：口縁部ヨコナデ。体部ヘラ削り。 内：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。 一部に底部から口縁までナデ上げ。

## 堅穴住居跡(SH002)

№	種別 器種	出土 位置	計測 値 cm(g) 或 存 色調(外側・内側)／板或	胎土	特徴・調整・文様等
4	土師器 甕	カマF	口：— 高：(3.8) 底：— 最大径：— 体部破片 褐色／良好	白色粘	外：沈殿。擦き波状文。 内：ナデ。
5	土師器 环	覆土	口：(10.6) 高：(3.5) 底：— 口縁一部破片 褐色／良好	長石、チャート、 白色粘	外：口縁部ヨコナデ。体～底部ヘラ削り。 内：口縁部ヨコナデ。体～底 部ナデ。
6	土師器 环	覆り方 覆土	口：— 高：(19.6) 底：(2.2) 最大径：— 脚～底部 瓢箪充 外：灰褐色 内：褐色／良好	石英、長石、角閃石、 チャート、白色粘	石英、長石、角閃石、 チャート、白色粘 外：脚部ヘラナデ。 内：脚～底部ヘラナデ。底面木葉面。
7	土師器 环	覆土	口：(19.6) 高：(2.2) 底：— 最大径：— 口縁一部破片 外：灰褐色 内：浅黃褐色／良好	輝石、チャート、 白色粘	輝石、チャート、 白色粘 外：ヨコナデ。 内：口縁部ヨコナデ。瓶部ナデ。指サエ。
8	石器 磨石	覆土	長：8.6 幅：6.9 厚：3.6 重：257.6 完形	砂岩	砂岩。繩文時代か。

第12表 出土遺物觀察表(2)

土坑(SK017)

No.	種別 器種	出土 位置	計測 値 (cm・g) 色調(外側・内側)/他或 い	胎土	特徴・調整・文様等
9	土師器 环	覆土	口:(13.8) 高:(4.0) 底:- 周長径:- 口縁一部破片 橙色/良好	結晶片岩。白色粒	外:口縁部ヨコナデ。体部ヘラ削り。 内:口縁部ヨコナデ。体部ナデ。

土坑(SK018)

No.	種別 器種	出土 位置	計測 値 (cm・g) 色調(外側・内側)/他或 い	胎土	特徴・調整・文様等
10	軟質陶器 鏡	覆土	口:(35.8) 高:(19.0) 底:(14.8) 最大径:- 口縁一部破片 外:黒色 内:灰色/やや良	石英。白色粒	土師質。ロクロ成形。18世紀か。外面に黒、炭化物付着。

井戸(SE002)

No.	種別 器種	出土 位置	計測 値 (cm・g) 色調(外側・内側)/他或 い	胎土	特徴・調整・文様等
11	土師器 环	覆土	口:(11.8) 高:3.8 底:(0.2) 最大径:- 口縁一部底部 2/3 橙色/良好	輝石。チャート。 褐色	外:口縁部ヨコナデ。体~底部ヘラ削り。 内:口縁部ヨコナデ。体~底部ナデ。
12	土師器 環	覆土	口:(21.0) 高:(27.4) 底:- 最大径:(21.0) 口縁一部底部 外:明褐色 内:褐色/良好	砂粒。長石。チヤード。結晶片岩。白色粒	外:口縁部ヨコナデ。側部ヘラ削り。 内:口縁部ヨコナデ。側部ヘラナデ。
13	土師器 環	覆土	口:- 高:(23.6) 底:- 最大径:(15.4) 結晶片岩 外:褐色 内:淡褐色/やや良	砂粒。石英。チヤード。結晶片岩	外:側部ヘラ削り。 内:側部ヘラナデ。
14	軟質陶器 内耳環	覆土	口:20.0 高:16.5 底:- 口縁一部底部 外:黒褐色 内:褐色/良好	石英。角閃石。褐色	土師質。外面に保付着。
15	軟質陶器 焰焰	覆土	口:(34.0) 高:6.0 底:(33.0) 最大径:- 口縁一部破片 外:黒褐色 内:褐色/やや良	石英。チャート。白色粒。褐色	土師質。ロクロ成形。外面に保付着。
16	金属製品 釘	覆土	長:(4.3) 大:0.4 角:重:3.5 頭部:尖端丸頭		断面四角形。逆さに波打たせ。

井戸(SE003)

No.	種別 器種	出土 位置	計測 値 (cm・g) 色調(外側・内側)/他或 い	胎土	特徴・調整・文様等
17	かわらけ 小杯	覆土	口:7.4 高:2.2 底:5.6 最大径:- 完形 外:灰褐色 内:黄褐色/良好	石英。白色粒	ロクロ成形(左回転)。 外:底部分軸切り元調整。口縁~体部未調整。 内:未調整。
18	陶器 嘴頭口	覆土	口:3.9 高:2.4 底:3.3 最大径:- 本体完形 手把欠損 地:黒褐色 鮫:浅黄色/良好	石英。褐色粒	ロクロ成形。直面輪形切り。 鯫に淡黄色の輪を描ける。 内面・直面にトレン粗粒。

井戸(SE005)

No.	種別 器種	出土 位置	計測 値 (cm・g) 色調(外側・内側)/他或 い	胎土	特徴・調整・文様等
19	土師器 环	覆土	口:10.5 高:4.1 底:- 完形 橙色/良好	石英。チャート。白色粒	外:口縁部ヨコナデ。体部ヘラ削り。 内:口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。

溝(SD002)

No.	種別 器種	出土 位置	計測 値 (cm・g) 色調(外側・内側)/他或 い	胎土	特徴・調整・文様等
20	陶器 瓦器	覆土	口:7.0 高:5.1 底:(4.4) 最大径:11.2 口縁一部底 3/4 明褐色/やや良	断面:灰白色	ロクロ成形。 脚下平および内面無地。溝口直造。
21	陶器 皿	覆土	口:(13.5) 高:3.0 底:7.7 口縁一部底 2/3 地:灰色 鮫:灰褐色/良好	断面:灰黄色	ロクロ成形(右回転)。削り高台。側深舟船。 外:腰下無地。高台内外に保付着。 内:重ね模様直。 溝口直造。高台を光明日に軸用。
22	磁器 皿	覆土	口:(14.6) 高:3.4 底:5.5 口縁一部底 1/2 灰白色/良好	断面:灰白色	ロクロ成形。 要羽。入り口有翼。淡緑釉。高台内外無地。溝口直造。
23	磁器 皿	覆土	口:(10.6) 高:2.9 底:5.2 最大径:- 口縁一部底 1/2 灰白色/良好	断面:白色	ロクロ成形。削り高台。 腹付無地。 外:草木文(?) 内:草木文。二重頭輪内幅粗粒。 要羽。
24	磁器 皿	覆土	口:7.5 高:5.5 底:3.5 最大径:7.9 口縁一部底 1/2 灰白色/良好	断面:灰白色	平筒形。ロクロ成形。削り高台。 腹付無地。 外:高脚文。高台脇一面團扇。高台二重頭輪。 内:口縁子持帶輪。足込。 み二重頭輪内豊花文。
25	陶器 皿	覆土	口:(15.6) 高:8.9 底:(10.0) 最大径:17.0 口縁一部底 1/2 淡黄色/良好	断面:灰白色	大腹。ロクロ成形。削り高台。 高台内無地。溝口直造。

第13表 出土遺物觀察表(3)

溝(SDO02)

No.	種別 器種	出土 位置	計測 値 (cm・g) 色調 (外側・内側) / 備考	胎土	特徴・調整・文様等
26	土器 円筒状容器	覆土	口:(16.7) 高:(9.0) 底:- 周大径:- 口縁~腹部1/4に赤褐色/良好	石英、チャート	土師質。輪組成形。 外:口縁部コナデ。胴部ナデ後ヘラミガキ。 内:口縁部コナデ。 輪部ヘラケツリ且ナデ。 全体に施墨。赤化。
27	施泥 灰鉢	覆土	口:(17.2) 高:(9.5) 底:(17.0) 最大径:- 口縁~腹部1/4外:黒褐色 内:灰褐色/良好	砂粒。白色粒	ロクロ成形(右回転)。外:未調整。水浸痕強く残る。 内:底面を指で押さえてボウル形にくぼませる。端口天透か。
28	執豆陶器 鉢	覆土	口:(37.0) 高:3.2 底:(36.0) 最大径:- 口縁~底部1/6 嘴部褐色/良好	石英、チャート、 白色粒	土師質。ロクロ成形。外面に環付着。
29	陶器 盆	覆土	口:(29.6) 高:11.5 底:(11.4) 口縁~底部1/6 嘴部褐色/良好	砂粒。白色粒 断面:灰白色	ロクロ成形(左回転)。 内外面施釉。
30	陶器 盆	覆土	口:- 高:(3.4) 底:12.8 最大径:- 体~底部1/4 嘴部褐色/良好	砂粒。白色粒 断面:灰白色	ロクロ成形(左回転)。 内外面施釉。
31	瓦	覆土	長:(22.8) 幅:(14.8) 厚:1.0 破片 灰白色/中空	砂粒・白色粒	丸瓦か。一枚づくり。背面:布目面。端部付近ケズリ。凸面:ヘラケツリ 縫ナデ。古代か。
32	石製品 石臼	覆土	長:10.3 幅:7.1 厚:3.5 重:5200 壳形		下土。下面は凸凹らしい。再加工か。
33	石製品 石臼	覆土	長:(17.4) 幅:5.5 厚:1.0 重:469.4 壳形		研磨跡。上面を除き粗面。欠損後も底石として使用。 最近に使用。
34	金属製品 釘	覆土	長:(7.4) 幅:1.9 厚:0.9 重:91.4 半丸形		切っ先は丸く粗朶。切っ先付近での厚削約 5mm。
35	石器 打製石斧	覆土	長:(7.0) 幅:5.6 厚:1.9 重:148.9 基部・底部欠損		黒色頁岩。縄文時代。
36	石器 扁平棒状 石器	覆土	長:(6.4) 幅:5.5 厚:3.3 重:390.3 一部欠損		緑色結晶片岩。 端部に研削痕。縄文時代か。
37	石器 扁平棒状 石器	覆土	長:15.5 幅:5.1 厚:1.9 重:216.0 一部欠損		緑色結晶片岩。 端部に最打痕。縄文時代か。

溝(SDO03)

No.	種別 器種	出土 位置	計測 値 (cm・g) 色調 (外側・内側) / 備考	胎土	特徴・調整・文様等
38	須恵器 壺 (輪形視)	覆土	口:- 高:(2.7) 底:- 体~底部1/4 灰褐色/良好	白色粒。黑色粒	ロクロ成形(左回転)。底面削除後高台付粘 着跡を削除して使用する。墨の付着認められず。葉開東産か。
39	土師器 壺	覆土	口:(10.8) 高:(3.7) 底:- 口縁~体部断片 褐色/良好	石英、チャート	外:口縁部コナデ、体部ヘラケツリ。 内:口縁部コナデ。体部ナデ。 断面:灰褐色
40	土師器 子貝	覆土	口:- 高:(3.5) 底:- 最大径:- 口縁~腹部破片 浅黄色/良好	砂粒。石英、チャート。 削出。 剥離	外:口縁部コナデ。 胸部削毛目。 内:口縁部コナデ。 体部ナデ。 剥 オサエ。 剥離ナデ。
41	土師器 壺	覆土	口:(19.6) 高:(4.3) 底:- 最大径:- 口縁~腹部1/4 外:淡黄褐色 内:灰褐色/良好	石英、チャート、 褐色粒	外:口縁部コナデ。 胸部削毛目。 内:口縁部コナデ。 体部コナデ。
42	土器 壺	覆土	口:(37.4) 高:6.6 底:- 口縁~体部断片 外:灰褐色 内:灰褐色/良好	砂粒。雪母	素燒であるが硬質。ロクロ成形とみられる。
43	石製品 石臼	覆土	長:(7.0) 幅:3.5 厚:1.6 重:77.6 1/2		底凹凸。 圓面。下面に加工痕残る。

溝(SDO05)

No.	種別 器種	出土 位置	計測 値 (cm・g) 色調 (外側・内側) / 備考	胎土	特徴・調整・文様等
44	土師器 壺	覆土	口:10.5 高:1.9 重:(7.5) 口縁~底部1/4 褐色/良好	石英、チャート	外:底部ヘラ削り。 口縁~体部ナデ。 内:口縁部コナデ、体部ナデ。

性格不明遺構(SX002)

No.	種別 器種	出土 位置	計測 値 (cm・g) 色調 (外側・内側) / 備考	胎土	特徴・調整・文様等
45	土師器 壺	覆土	口:- 高:(2.5) 底:3.0 胴下部~底部2/3 外:褐色 内:灰褐色/良好	石英。白色粒	外:胸部ヘラナデ。 内:胴~底部ヘラナデ。

第14表 出土遺物觀察表(4)

性格不明遺構 (SX003)

No.	種別 器種	出土 位置	計 長 埋 (cm・g) 或 存 色調(外側・内側)／焼成	塵土	特徴・調整・文様等
46	土師沼 S字縫	塵土	口:(12.7) 高:(4.9) 底:( 口縁～脚上部 1/2 外：黒褐色 内：灰黃褐色／今半生直	石英。角閃石。白 色粒	外：口縁部ヨコナデ、脚部網毛目。 内：口縁部ヨコナデ、脚部ナデ。 削オサエ、脚部ナデ。
47	土師沼 S字縫	塵土	口:(—) 高:(5.7) 底:(4.9) 台部:(4) 外：に点々焼色 内：灰褐色／良好	砂粒。角閃石。白 色粒	下端を削り底す。 外：網毛目(部分的)。 内：削オサエ。ナデ。

遺構外

No.	種別 器種	出土 位置	計 長 埋 (cm・g) 或 存 色調(外側・内側)／焼成	塵土	特徴・調整・文様等
48	土師沼 器台	焼出面 西部	口:8.2 高:7.3 底:(10.9) 最大径:— 受部:2.7、脚部:1等 外: 黄褐色 受部内: 黑褐色 御内: 灰褐色／良好	角閃石。チャート。 白色粒	脚部取扱折り返し。透穴 2か所残存。 外: 受部ヨコナデ、体部ヘラミガキ、脚部網毛目後ヘラミガキ。 内: 受部ヘラミガキ。脚部ナデ。
49	磁器 碗	焼出面 東部	口:9.5 高:5.3 底:3.6 受部 灰白色／良好	断面:灰白色	ロクロ或形、削り高台。骨付無地。 外: 前し梅瓶文、高台脇一連圓線。高台二重圓線。 内: 無文。 凹陷。
50	磁器 碗	東トレーン 裏	口:7.0 高:3.9 底:2.9 口縁～底部 1/2 灰白色／良好	断面:灰白色	ロクロ或形(右回転)、削り高台。骨付無地。 外: 世文(?)。 内: 無文。 凹陷。

## 第VI章　まとめ

### 検出された遺構

上中居字名室遺跡2の調査では、堅穴住居跡2軒、土坑31基、井戸5基、溝5条、性格不明遺構3基、ピット80基が検出された。遺構の時期は、主に出土遺物から6世紀末～7世紀初頭、江戸時代後期を中心とする近世に大別される。古墳時代後期の遺構はSI001・002、SK001～010・012・014～017・019・020・025・026・030・031、SE001・005、SD003・005、SX002・003である。江戸時代後期の遺構はSK011・018・022・023・028、SE002・003、SD002、SX001である。覆土にAs-Aが含まれる遺構があることから、天明三（1873）年の降下時までに埋没したと考えられる。ピットについては、出土遺物と覆土の特徴からSP001～003・009・010・014・026・033～036・040・041・043・059・060が江戸時代後期に属し、それ以外が古墳時代後期に属すと考えられる。

検出された遺構のうち、SK001・006～008・016・025・026の7基の土坑は、いずれも底面直上に1mm程度の厚さで灰が堆積していた。覆土に微量の焼土粒や炭化物は混入していたが、内部に燃焼の痕跡がみられないことから、灰は外部から持ち込まれたものと推定される。時期は出土遺物から古墳時代後期頃と考えられるが、SI002やSE005よりも新しいことから6世紀末～7世紀初頭以降に位置付けられる。土坑の性格については不明な点が多い。周辺遺跡においても類似する遺構がみられないため推測の域を出ないが、何らかの貯蔵施設あるいは土坑墓などの用途が考えられる。

調査区東端で検出されたSD002・003は、SD002が江戸時代後期、SD003が古墳時代後期の溝である。SD002は調査区東端に沿うように南北へと走行し、F-4グリッド北端で北西方向に、B-3グリッドで南東方向に延びることから、微高地の際に沿って掘削されていることが確認された。SD003の方は微高地で検出された集落と同時期の溝である。検出範囲がSD002よりも狭く、延長方向は不明だが、SI001・002とほぼ同時期の遺物が出土していることから、微高地に立地する古墳時代の集落と関わる可能性が高い。両溝ともに、立地条件や規模などから地境や用水路などの用途が考えられる。

### 周辺遺跡との関連

今回の調査では、北西から南東へと緩やかに傾斜する微高地が確認された。平成21年度に行われた上中居字名室遺跡の調査においても西から東へと傾斜する微高地が確認されており（注1）、両遺跡は同じ微高地上に立地すると考えられる。周辺をさらに概観すると、北約200mに上中居遺跡群、中居町一丁目遺跡（H17・22）が確認されている。上中居遺跡群では、古墳時代前期～後期にかけての堅穴住居跡45基と同前期の方形周溝墓2基が検出されており、東西800mの調査範囲のうち中央と東端の微高地上に集落跡が立地している（注2）。周辺の地形は微高地と低地が連続する複雑な地形であるため、断定するには更なる調査の進展が必要であるが、遺構の時期と遺跡間の位置関係から、本遺跡と上中居遺跡群、中居町一丁目遺跡は同一の微高地に立地し、今回の調査で検出された堅穴住居跡が、上中居遺跡群で検出された集落跡の一部であった可能性が考えられる。

### 小結

今回の調査では、6世紀末～7世紀初頭に微高地に営まれた集落の一端と、18世紀を中心とする江戸時代後期の遺構を確認することができた。一方、古代から中世にかけての資料は確認されず、古墳時代から江戸時代後期にかけての様相は不明なままとなっている。今後、周辺の調査が進展することによって、当該地域における人間の生活の様相が判明していくものと期待する。

注1 平成21年度に調査された上中居・字名室遺跡では、東へと緩やかに傾斜する微高地が確認され、古墳時代後期の溝、奈良時代の土坑、時期不明の土坑・ピットが検出されている。溝は6世紀末～7世紀初頭に属し、東端で検出された低地へと続いている。低地上層から溝と同時期の須恵器・土師器などが出土している。

注2 上中居遺跡群では、縄文時代の集石造構・土坑・溝、古墳時代前期～後期の整穴住居跡・土坑・溝・方形周溝墓、奈良時代の土坑・井戸・水田、中世～近世の城館跡などが検出されている。中居町一丁目遺跡では、縄文時代の整穴住居跡、古墳時代の溝、平安時代の溝・水田などが検出されている。特に上中居遺跡群では古墳時代を通して集落が営まれており、本遺跡との関連性が注目される。同道路の変遷については、平成22年度に調査が行われた中居町一丁目遺跡3（坂口2010）に詳しい。

#### 引用・参考文献

- 群馬県史編さん委員会 1990 『群馬県史 通史編Ⅰ 原始古代Ⅰ』  
高崎市史編さん委員会 1996 『新編高崎市史 資料編3 中世Ⅰ』  
高崎市史編さん委員会 1999 『新編高崎市史 資料編Ⅰ 原始古代Ⅰ』  
高崎市史編さん委員会 2000 『新編高崎市史 資料編2 原始古代Ⅱ』  
高崎市史編さん委員会 2003 『新編高崎市史 通史編Ⅰ 原始古代』  
高崎市教育委員会 1989 高崎市文化財調査報告書第101集「上中居辻葉師遺跡」  
高崎市教育委員会 1992 高崎市文化財調査報告書第119集「上中居早道場遺跡」  
高崎市教育委員会 2009 高崎市文化財調査報告書第232集「上中居遺跡群」  
高崎市教育委員会 2009 高崎市文化財調査報告書第244集「高閣高根遺跡」  
高崎市教育委員会 2010 高崎市文化財調査報告書第254集「上中居・字名室遺跡」  
高崎市教育委員会 2010 高崎市文化財調査報告書第268集「倉賀野西上正六遺跡」  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書509「中居町一丁目遺跡3」

写 真 図 版





調査区全景（西から）



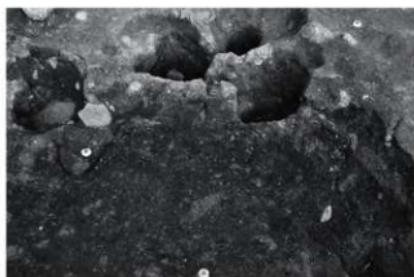
調査区全景（南から）



SI001 床面 全景（西から）



SI001 遺物出土状況（西から）



SI001 カマド火床面検出状況（西から）



SI001 掘り方 全景（西から）



SI002 床面 全景（南西から）



SI002 掘り方 全景（南西から）



SK001 灰検出状況（南から）



SK006 灰検出状況（西から）



SK008 灰検出状況（南から）



SK025 灰検出状況（東から）



SE001 全景（南から）



SE005 遺物出土状況（東から）



SD002 全景（南から）



SD003 全景（南西から）



SD003 全景（北西から）



SD002・003 セクション（南から）



1



2



3



1



4



5



6



7



8

9



10



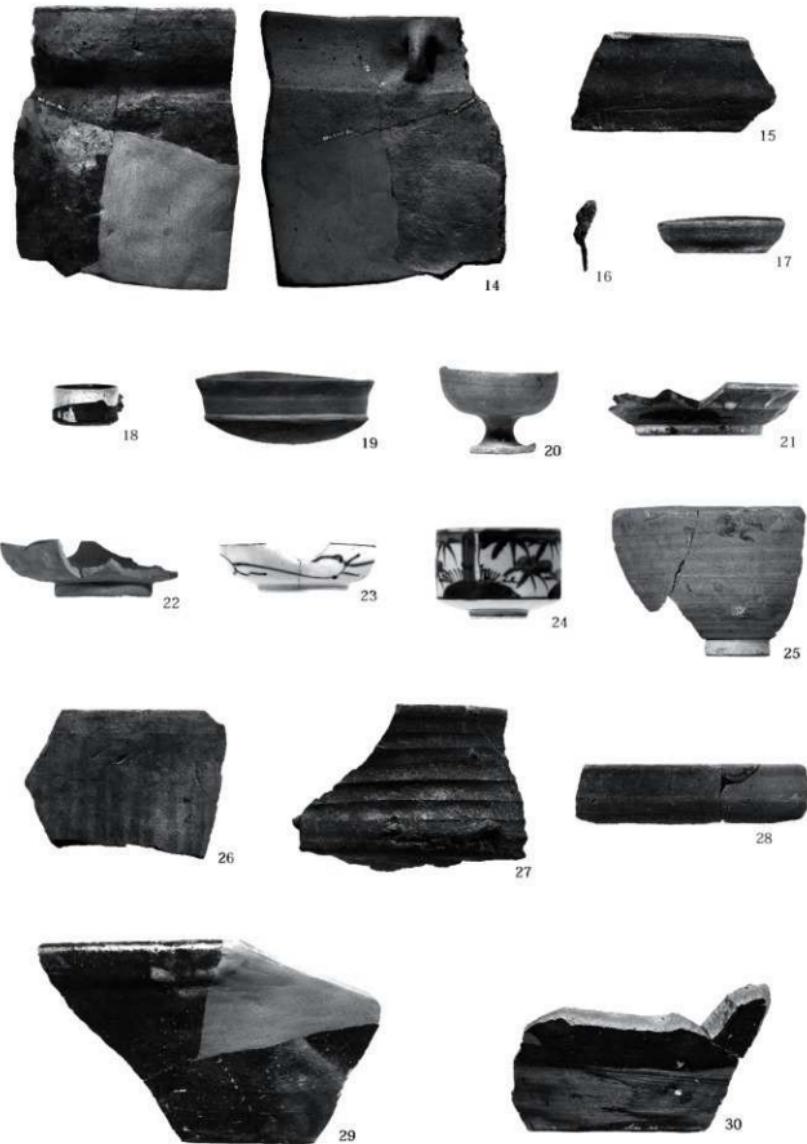
11



12



13



出土遺物 2



出土遺物 3

# 報告書抄録

フリガナ	カミナカイウナムロイセキ2
書名	上中居宇名室遺跡2
副書名	集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第376集
編著者名	安生泰明
編集機関	株式会社シン技術コンサル
所在地	〒370-1135 群馬県佐波郡玉村町板井 311-1
発行年月日	2016年6月30日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
カミナカイウナムロ 上中居宇名室 遺跡2	高崎市上中居町 1167番地1 1168番地1 1168番地1	102024	665	36° 19' 09"	139° 01' 57"	2016.2.1 ~ 2016.3.10	300m <sup>2</sup>	集合住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
			縄文時代			
上中居宇名室 遺跡2	集落	古墳時代	竪穴住居 土坑 井戸 溝 性格不明遺構 ピット	土師器・須恵器・ 石製品		
			土坑 井戸 溝 性格不明遺構 ピット			
		江戸時代	土器・陶器・ 磁器・石製品・ 金属製品			
要約		高崎市東部に位置し、鳥川と井野川に挟まれた高崎台地西部に立地する遺跡で、小河川に沿った自然堤防状の微高地において古墳時代後期の竪穴住居跡・土坑・井戸・溝・性格不明遺構・ピット、近世の土坑・井戸・溝・性格不明遺構・ピットを確認した。時期は、古墳時代後期については6世紀末～7世紀初頭、近世については16～18世紀に比定され、須恵器・土師器・土器・陶器・磁器・石製品・金属製品などの遺物が出土した。近接地域に分布する同時期の遺跡との関連も想定される。				

## 上中居宇名室遺跡2

—集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

平成28年6月24日 印刷

平成28年6月30日 発行

編集・発行／高崎市教育委員会

高崎市高松町35番地1

TEL 027-321-1291

印 刷／細谷印刷有限会社